

# 平成28年度公益財団法人よこはまユース事業報告

## I 事業概要

平成28年度は、青少年育成センター（第4期指定管理）、野島青少年研修センター（第3期指定管理）の指定管理期間（5年間）の1年目として、様々な事業を展開しました。また、青少年交流センターの廃止に伴う代替施設として、横浜市と運営団体である公営財団法人よこはまユースとの協働により、青少年の居場所や活動の場の提供など青少年の健やかな成長を支援し、社会参画に向かう力の育成に取り組む事業を桜木町ぴおシティ6階において、「青少年の交流・活動支援事業」を実施しました。

放課後キッズクラブの設立や安定的運営に関する不安や疑問に対して、法人が有している運営に関する経験と知識を活かした情報提供や相談、助言を積極的に行いました。

法人が取り組む事業の実践の場である青少年施設での事業や放課後キッズクラブの運営を通じて、専門的な知識や技術の蓄積や課題の把握等を行い、法人として中間支援機能の役割を發揮しました。

### 1 重点方針と主な事業

#### (1) 地域と取り組む青少年育成

地域や企業等を対象に青少年を取り巻く現状や課題の啓発を通じて、地域全体で青少年を見守る意識を育む研修・講座の実施、企業や団体の社会貢献活動の支援等に取り組みました。

##### 【主な事業】

- ◆地域団体等が主催する青少年課題をテーマとした研修や講座への講師派遣（事業係：知っておきたい！子ども・若者どこでも講座）
- ◆社会貢献活動の支援・推進（事業係：よこはま子ども寄り添いブック寄付金）
- ◆地域産業と連携した野島青少年研修センターのプログラム開発・改善・提供

#### (2) 健全育成の方法や資源を活用した青少年の潜在的リスク解消・軽減及び自立支援

青少年育成の豊富な実践と専門性をもとに、学校や地域・行政と連携し、社会全体で青少年を支える仕組みづくりに取り組みました。

##### 【主な事業】

- ◆教育機関と連携した中退や進路未定などのリスクを抱える高校生への支援事業（事業係：横浜総合高校「ようこそカフェ」）
- ◆課題解決に結び付けることができる人材の育成と研修（育成センター：ユースコーディネーター養成研修）
- ◆困難を抱える小中学生に対して基本的な生活・学習習慣を身に付けるための寄り添い型支援事業（かもん未来塾）
- ◆困難を抱える青少年のための体験活動支援（研修センター：宿泊キャンプの実施）

## 2 基本方針と主な事業

### (1) 青少年を見守る地域づくりと人材育成

地域全体で青少年を見守り・支える環境を醸成するための人材の育成や、地域が取り組む青少年育成活動を支援しました。

#### 【主な事業】

- ◆青少年育成センターの運営（下段「青少年育成センター 重点目標と主な事業」参照）
- ◆地域の青少年育成活動の推進・支援、活動相談（事業係）
- ◆野島青少年研修センター地域交流事業

#### 【青少年育成センター 重点目標と主な事業】

青少年を取り巻く現状と課題及び横浜市の青少年施策を踏まえて、青少年を支える人材の役割、青少年及び指導者・育成者の主体的な活動の支援、青少年育成に関する相談・情報提供及びネットワーク推進による青少年育成活動の推進に取り組みました。

##### ①諸室及び物品の貸出と利用者サービス

年間稼働率の向上に向けて、会議室や研修室、スタジオなどの利用促進に努めました。

- 活動支援事業（印刷室の運営、ロッカーの貸出 他）
- 利用者サービスの向上（利用促進、広報紙の発行 他）

##### ②人材育成事業

課題解決に結び付けることができる人材育成を始め、スキル等を学ぶ研修・講座やネットワークづくりを目的とした事業を実施しました。

- 青少年の居場所づくり講座
- ユースコーディネーター養成研修と認定制度に向けた取り組み
- スキルアップ講座
- よこはまユースシンポジウム
- 馬車道カレッジ、ユースチャレンジ（きずな夏祭り）

##### ③青少年育成活動に関する相談・情報提供

相談事業や情報発信を通じて青少年育成活動を支援しました。また、青少年育成活動のコーディネートを行い、青少年団体（活動）と市民とを繋ぐ取り組みをしました。

- 青少年活動に関する相談窓口の開設と情報コーナーの運営

### (2) 体験機会の提供

青少年に自然やボランティア活動など様々な体験活動の機会を提供することで、青少年の成長を図ることを地域や関係団体等と連携して推進しました。

#### 【主な事業】

- ◆青少年ボランティア体験活動の推進（青少年の交流・活動支援事業：青少年チャレンジ事業、放課後キッズクラブでの高校生インターンシップの受入 他）
- ◆自然環境や社会資源を活用した体験活動プログラムの実施（事業係：高校生水源林ボランティア、野島青少年研修センターの体験事業 他）

### (3) 青少年の居場所の支援

地域で青少年育成に励む人材の養成を行い、青少年が見守られ育まれる地域社会づくりを推進しました。

#### 【主な事業】

- ◆地域活動支援事業（事業係：磯子区岡村地区、神奈川区神大寺地区、十日市場中学校区における活動推進と支援）
- ◆横浜総合高校キャリア支援事業（事業係：教育機関との連携事業）

### (4) 野島青少年研修センター体験プログラム開発、柔軟な施設利用予約や利用者サービス向上

青少年が集団宿泊体験や自然体験など様々な体験を通じて成長できるよう、体験プログラムの開発に取り組みました。また、施設利用予約やサービスの向上など利用者のニーズに柔軟に対応した運営を行い、施設利用者の拡大を図りました。

#### 【野島青少年研修センター 重点目標と主な事業】

青少年を取り巻く現状と課題及び横浜市の青少年施策を踏まえて、子ども・青少年に対する体験活動の機会と場の提供、指導者・育成者の主体的な研修活動の支援に取り組みました。

##### ①利用者のニーズに応じた体験活動の提供

青少年が体験活動を通じて、自己肯定感や自己選択力を育むことができるよう、団体や地域住民と連携し、安全かつ効果的な体験活動プログラムを提供しました。

- 施設特性を活かしたプログラム
- 自然環境を活かしたプログラム
- 地域産業と連携したプログラム
- 防災プログラム

##### ②利用環境及び研修プログラム支援の充実

情報提供や事前相談、活動当日の支援など、利用団体が主体的に活動できるよう側面的に支援しました。また、より多くの青少年・指導者に体験活動や研修の機会を提供し、稼働率向上に向けて計画的に利用者の拡大を図りました。

- 利用の手引き、事前打合せ、利用当日の活動支援
- 研修プログラムの実施（レクリエーション、水辺の安全）

### (5) 放課後キッズクラブ事業等、放課後事業への取り組み

放課後キッズクラブの運営で得られた経験と知識を基に、放課後キッズクラブの安定運営や事業の充実、放課後事業所間でのネットワークの連携強化を図りました。

#### 【主な事業】

- ◆放課後キッズクラブの充実（人材育成、保護者・学校・地域との連携 他）
- ◆放課後キッズクラブの安定的な運営に向けた相談、助言による中間支援的役割
- ◆法人の枠を超えたネットワークの拡充・強化に取り組み、中間支援機能の発揮（はまっ子・キッズ交流事業 他）

## (6) 居場所、交流機能の新たな展開

青少年交流センターの廃止に伴う代替事業として、青少年の居場所や活動の場の提供など青少年の健やかな成長を支援し、社会参画に向かう力の育成に取り組む「青少年の交流・活動支援事業」を管理運営団体として実施しました。

### 【青少年の交流・活動支援事業 重点目標と主な事業】

青少年が様々な人との出会い・交流する場をつくり、社会性を育み、日常的な青少年との関わりを大切にして、課題の早期発見・早期支援に努めるとともに、青少年が体験活動や経験を通じ、学び合い・育ち合う関係性を築きました。また、青少年の社会参加・社会参画を地域とともに推進しました。

#### ①青少年の交流・体験活動の充実

青少年が気軽に安心して過ごすことのできる居場所を提供しました。また、世代や地域を超えた多様な人との出会いや多様な体験プログラムを通して、青少年の交流機会や自己成長の機会を提供しました。

- フリースペースの運営とロビーワークの実施
- 青少年チャレンジ事業（ダンス教室、ヨガ教室、ドラム相談会）
- 困難を抱える青少年の活動支援事業（中高生対象の無料夏期集中勉強会 他）

#### ②青少年の社会体験活動の推進

社会体験を通して、青少年が社会や仕事について知り、将来を考えるきっかけとなる体験機会を提供しました。

- 社会体験・就労体験活動（社会見学会、社会教育実習の受入、中学生職場体験の受入）
- 若者コミュニティ事業（カルチャークラブ、スポーツクラブ、中高生の井戸端会議）

## (7) 組織・経営基盤強化（人材育成、寄附金の拡充、企業）

人材育成や寄附金の募集、企業との連携を進めることで、組織や経営基盤の強化を図りました。

### 【主な事業】

- ◆ 賛助会員及び一般寄附者の拡充（総務課：会員募集事業）
- ◆ 寄附金拡充を目的とした収益事業（総務課：爆笑！濱っ子寄席）
- ◆ 職員の人材育成（総務課：新採用職員研修、実務専門研修、管理職研修、人権研修）

## (8) 情報発信、広報・宣伝力の強化

「よこはまユースレター」の発行を通じて、事業報告や成果を速やかに周知・広報することで、多くの市民や青少年に法人をアピールし、青少年育成活動への関心と参加を喚起しました。

### 【主な事業】

- ◆ 広報・PR（総務課：よこはまユースレターの発行、ホームページの運営管理）
- ◆ 調査・研究事業（事業係：情報誌「YOKOHAMA EYE'S」の発行）

### 3 事業の柱と公益目的事業区分

当法人の定款に定める事業の柱と公益目的事業区分は次の通りです。

#### 【事業の柱】

- A：青少年活動を支援する事業
- B：青少年を支える人材を育成する事業
- C：青少年に体験機会や活動の場を提供する事業
- D：その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

#### 【公益目的事業区分】

- あ：施設の貸与
- い：講座、セミナー、育成
- う：体験活動等
- え：相談、助言
- お：調査、資料収集

#### A：青少年活動を支援する事業

##### あ：施設の貸与

この事業は、青少年育成活動を展開するための安全で効果的な場を提供することで、青少年の育成に寄与することを目的としています。

指導者・育成者による打合せや準備、活動の場として施設を提供するほか、青少年が主体的に関わることができる体験活動や宿泊プログラムがより充実できるように、相談や情報提供による支援を行っています。なお、施設の特徴や利用案内に関しては、施設パンフレットやホームページに情報を掲載し幅広く周知しています。

##### 【主な事業・取り組み】

- フリースペースの運営（青少年の交流・活動支援事業）
- 青少年の指導者・育成者の活動拠点の運営（青少年育成センターの諸室及び物品の貸出）
- 青少年の集団宿泊体験活動拠点の運営（野島青少年研修センターの施設・設備貸出）

##### え：相談、助言

この事業は、青少年と大人が共に育つ環境を醸成することで青少年の育成に寄与することを目的としています。

青少年が事業に関わることにより、自らが学び育つ機会を幅広く提供するために、青少年に対する相談・助言、情報提供、コーディネート、研修講師の派遣・紹介、研修や地域活動のプランニングなど、多様な支援を行っています。

##### 【主な事業・取り組み】

- 放課後キッズクラブの安定運営に向けた相談、助言
- はまっ子・キッズ交流事業
- 地域活動支援事業（地域の青少年育成活動の推進、支援 他）
- 青少年を対象とした企業等の社会貢献活動支援事業
- 知っておきたい！子ども・若者どこでも講座
- 相談支援事業（青少年に対する日常的な相談・助言 他）
- 相談・コーディネート、情報提供（青少年育成にかかる相談、情報提供、調査 他）

## お：調査、資料収集

この事業は、青少年活動に活用できる資源の調査や事業効果を検証し、青少年活動プログラム開発のための基礎資料としての活用や団体及び教育機関に提供することで、青少年の育成に寄与することを目的としています。

横浜市内で行われているNPOや企業の社会貢献活動等と青少年育成活動や学校の体験 学習等が連携することで、青少年が自ら学び育つことができる活動領域の拡大や活動機会を充実するため、市内の活動の調査、新規事業の開発を行っています。

### 【主な事業・取り組み】

- 調査・研究事業（困難を抱える青少年を支援する事業の検討と開発 他）
- 体験プログラムの調査研究（学校や利用者のニーズ調査 他）

## B：青少年を支える人材を育成する事業

### い：講座、セミナー、育成

この事業は、青少年を支える人材や活動の核となる青少年を養成することで、青少年と大人が共に育つ環境を醸成し、青少年の育成に寄与することを目的としています。

青少年及び青少年育成に関する知識や技能を習得することで、青少年育成への理解を深め青少年育成活動の普及を推進し、青少年が自ら学び育つことができる機会の充実や自立支援に関わる人材を育成します。具体的には、社会的な課題をはじめ青少年育成活動の実践から得た課題を基に、テーマを定め必要に応じ専門機関・団体等と連携し講座・研修を実施しています。

### 【主な事業・取り組み】

- 放課後3事業従事スタッフの人材育成研修
- 人材育成事業（講師派遣、子ども・若者エンパワメントセミナー）
- 青少年サポーター育成事業
- 課題解決に結び付けることができる人材の育成と支援（ユースコーディネーターの養成）
- 人材のすそ野を広げるための講座・研修（スキルアップ研修 他）
- 啓発事業（よこはまユースシンポジウム 他）
- 人材育成のためのネットワークの形成（よこはまユースゼミ 他）
- 活動充実のための研修事業（ステップアップ・専門研修）
- 青少年育成活動の担い手の養成（馬車道カレッジ 他）
- 青少年指導者育成者研修（指導者講習会）
- ボランティアの養成（野島体験プログラムボランティアの支援）

## C：青少年に体験機会や活動の場を提供する事業

### う：体験活動等

この事業は、青少年が学校や家庭では得にくい多様な体験活動に参加することで、青少年の育成に寄与することを目的としています。

青少年が体験を通じ自ら感じ考えることで学び育つことができる機会として、就労体験、社会体験、自然体験、集団宿泊体験等の事業を企画・実施しています。

具体的には、お互いに協力して目標を達成していく過程で青少年が社会性や協調性を育み自ら成長していくことができるよう、集団や個人の特性に応じて活動領域や手法を変え体験活動を実施するとともに、青少年事業の研究・調査・開発を行っています。

### 【主な事業・取り組み】

- 寄り添い型支援事業（かもん未来塾）
- 自然・社会体験プログラムの開発及び体験機会の提供（道志村と連携した社会体験・交流プログラム、教育機関との連携事業 他）
- 青少年の交流・体験事業（青少年チャレンジ事業 他）
- 社会参加プログラム（若者コミュニティ事業）
- 困難を抱える青少年の支援事業（中退・不登校者向けの学習会 他）
- 体験プログラムの提供（自然環境を活かしたプログラム開発・提供 他）
- 市民活動団体と協働した体験プログラムの実施（オールクリーン野島ビーチ 他）
- 困難を抱える青少年のための体験活動支援（宿泊キャンプの実施 他）
- 地域交流事業（地域住民と連携した文化活動教室の実施）

### D：その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

この事業は、収益事業及び法人運営のための取り組みです。

#### ①寄附金募集事業

当法人の取り組みを広く市民に周知し理解を深め協力を得ることを目的として、寄附金拡充を目的とした収益事業を行なっています。

### 【主な事業・取り組み】

- 寄附金拡充を目的とした収益事業（爆笑！濱っ子寄席）
- 会員募集事業

#### ②事務局運営

公益財団法人としての使命を果たすとともに、安定して継続的に運営できるよう、職員の人材育成やガバナンスの強化を更に推進しています。

### 【主な事業・取り組み】

- 法人の広報・PR（よこはまユースレターの発行 他）
- 職員の人材育成
- 評議員会、理事会の運営

平成28年度 公益財団法人よこはまユース 事業評価

Ⅱ 事業体系表

課・係・施設	事業の柱	公益目的事業区分	事業名
総務課	C 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業	う 体験活動等	1 寄り添い型支援事業
	D その他、この法人の目的を達成するために必要な事業		2 賛助会員及び一般寄附者の拡充 3 寄附金拡充を目的とした収益事業 4 法人の広報・PR 5 法人職員の人材育成
キッズ運営課	A 青少年活動を支援する事業	え 相談、助言	1 放課後キッズクラブの安定的な運営に向けた相談、助言 2 はまっ子・キッズ交流事業
	B 青少年を支える人材を育成する事業	い 講座セミナー、育成	3 放課後3事業従事スタッフの人材育成研修
	C 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業	う 体験活動等	4 放課後キッズクラブ運営
事業係	A 青少年活動を支援する事業	え 相談、助言	1 地域活動支援事業 2 青少年を対象とした企業等の社会貢献活動支援事業 3 知っておきたい！子ども・若者どこでも講座
		お 調査、資料収集	4 調査・研究事業
	B 青少年を支える人材を育成する事業	い 講座セミナー、育成	5 人材育成事業
C 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業	う 体験活動等	6 自然・社会体験プログラムの開発及び体験機会の提供 7 道志村と連携した自然体験プログラムの実施	
青少年の交流・活動支援事業	A 青少年活動を支援する事業	あ 施設の貸与	1 活動支援事業 2 利用促進事業
		え 相談、助言	3 相談支援事業
	B 青少年を支える人材を育成する事業	い 講座セミナー、育成	4 青少年サポーター育成事業
C 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業	う 体験活動等	5 青少年の交流・体験事業 6 社会参加プログラム 7 困難を抱える青少年の支援事業	
青少年育成センター	A 青少年活動を支援する事業	あ 施設の貸与	1 諸室及び物品の貸出
		え 相談、助言	2 相談・コーディネート 3 情報提供（情報コーナーの運営）
B 青少年を支える人材を育成する事業	い 講座セミナー、育成	4 課題解決に結び付けることができる人材の育成と支援 5 人材のすそ野を広げるための講座・研修 6 啓発事業 7 人材育成のためのネットワークの形成 8 活動充実のための研修事業 9 青少年育成活動の担い手の養成	
野島青少年研修センター	A 青少年活動を支援する事業	あ 施設の貸与	1 施設・設備貸出事業 2 利用促進事業
		お 調査、資料収集	3 体験プログラムの調査研究
	B 青少年を支える人材を育成する事業	い 講座セミナー、育成	4 青少年指導者育成者研修 5 ボランティアの養成
C 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業	う 体験活動等	6 体験プログラムの提供 7 市民活動団体と協働した体験プログラム 8 困難を抱える青少年のための体験活動支援 9 地域交流事業	



平成28年度 公益財団法人よこはまユース 事業評価

※次年度方針 ①：継続 ②：改善継続 ③：転換 ④：移管 ⑤：休止 ⑥：廃止

事業の柱 ／ 公益目的 事業区分	課・係・施設別評価						事業 区分別 総合 評価	※ 次年度 方針	総合評価コメント
	総務課	キッズ 運営課	事業係	青少年の 交流・活動 支援事業	育成C	研修C			
A 青少年活 動を支援 する事業	あ 施設の 貸与				31/50 (62%) b	13/25 (52%) b	31/50 (62%) b	75/125 (60%) b	① ・青少年の交流・活動支援事業は、28年度に開設し、利用者（目標7000人、実績11,239人）及び稼働率（目標60%、実績60.8%）ともに目標を達成した。 ・育成センターの利用団体の傾向としては、団体の小規模化、細分化が進み、センターが29年度下期に休館することを受けて、団体において29年度の活動場所を他に変更している傾向が見受けられ、利用人数は8.8%減の59,449人となった。 ・研修センターは、宿泊利用人数は3.8%増の20,965人であったが、日帰り利用者数は25.2%減の8,247人となった。
	え 相談 助言		32/50 (64%) b	52/75 (69%) b	16/25 (64%) b	9/25 (36%) c		109/175 (62%) b	② ・行政機関や地域、企業からの「居場所づくり」や「青少年活動」における相談に対して、法人としての中間支援機能を発揮し、助言を行っている。 ・企業が取り組む社会貢献活動制度を活用した青少年支援のための「よこはま子ども寄り添いブック寄付金」制度を立上げた。 ・キッズクラブ運営に関する経験と知識を活かして、安定的なキッズクラブ運営の疑問や不安解消に向けた支援を行った。 ・青少年育成やボランティア・市民活動等に係る相談窓口は、他に相談機関が整備される中、求められる相談・コーディネート力の再構築が必要である。
	お 調査 資料 収集			16/25 (64%) b			15/25 (60%) b	31/50 (62%) b	② ・青少年のニーズと社会的課題に応じた新たな事業展開に向けて、大学や研究機関との協働による事業の成果検証や事業評価システムの検証・改善、青少年に関する調査・研究事業は、法人の中間支援組織の役割を果たす重要な事業である。 ・研修センターでは、体験プログラムを利用した利用者に対してヒヤリングを行い、新たなプログラム開発につなげることが必要である。
B 青少年を 支える人 材を育成 する事業	い 講座 セミナー 育成		16/25 (64%) b	16/25 (64%) b	14/25 (56%) b	79/150 (53%) b	31/50 (62%) b	156/275 (57%) b	② ・エンパワメントセミナーは、個人で参加できる講座の特性を活かして広く広報を行い、多くの人が参加できる仕組みを工夫する必要がある。 ・コーチング入門講座の受講者に限定したスキルアップ講座を実施したが、入門講座開催の広報時に当該講座の日程・講座内容が広報出来ていなかったことから、広報の仕方を再検討する必要がある。 ・ユースコーディネーター認定制度導入を踏まえて、必要とする講座・研修内容を企画することが必要である。
C 青少年に 体験機会 や活動の 場を提供 する事業	う 体験 活動等	18/25 (72%) a		46/75 (61%) b	31/75 (41%) c		65/100 (65%) b	160/275 (58%) b	② ・高校中退や進路未定等のリスクを抱える高校生を対象に横浜総合高校を実施場所として、大学、NPOと連携して、高校の中に相談と交流を目的とした居場所の体制をコーディネートすることができた。 ・青少年の交流・体験事業は、プログラム実施数は増えているが、定員に対する充足率は64%と低迷していることから情報の発信の仕方やプログラム内容を精査するなど見直し・改善が必要である。 ・研修センターでは、野島の自然を活かした体験プログラム、漁港、大学等の社会資源を活用した体験プログラムなど教育カリキュラムに合った体験プログラムを提供し、小中学校の効果的な宿泊体験学習を支援出来ている。
D その他、この法人 の目的を達成す ために必要な事業		39/75 (52%) b						39/75 (52%) b	② ・会員増、寄附金増への取り組みを検討する必要がある。また、「よこはま子ども寄り添いブック寄付金」のような会員外からの寄附の仕組みづくりが求められる。
課・係・施設の 経営業務姿勢		15/25 (60%) b	16/25 (64%) b	18/25 (72%) a	15/25 (60%) b	15/25 (60%) b	16/25 (64%) b	95/150 (63%) b	・法人が有する資源や地域資源を活用して、地域活動や企業の社会貢献活動を支援することは、法人の中間支援組織としての役割を十分に発揮している。 ・キッズクラブ運営に関する経験と知識を活かした放課後キッズクラブ安定的運営に向けた支援では、法人の中間支援機能が発揮できている。
課・係・施設別 総合評価  上段:評価点 中段:得点率 下段:総合評価		72/125 (58%) b	64/100 (64%) b	148/225 (66%) b	107/200 (54%) b	116/225 (52%) b	158/250 (63%) b	665/1125 (59%) b	・事業係で行う事例研究や意識調査を通じた青少年関係の情報収集・発信の取り組みは、法人の中間支援組織として重要な取り組みである。 ・青少年の交流・活動支援事業では、新規施設として利用者数、稼働率とも目標を達成できたことは成果である。 ・寄り添い型支援事業では、29年度から評価を客観的に表す定量評価を実施する。 ・放課後キッズクラブの運営法人の枠を超えた関係づくりを進めるとともに、放課後事業所の職員が閉塞感を持たないよう情報交換の機会を設けるなど、法人の中間支援機関としての役割を担っている。 ・育成センターにおける青少年支援への関心を高め、青少年を支える人材のすそ野を広げていくことは、法人の中間支援組織としての使命である。 ・研修センターでは、利用団体との事前の打ち合わせを綿密に行った結果、利用者の高い満足度が得られた。
評価点	評価委員が事業区分毎に評価した合計点(25点満点) 【評価委員】 常務理事、業務執行理事2人、課長職2人								5点=目標を大きく上回る成果、特筆すべき又は顕著な成果があった 4点=目標以上の成果があった 3点=目標を達成できた 2点=目標をやや下回った 1点=目標に届かず、改善が必要 0点=中止、未実施
総合評価ランク (得点率)	s=90%以上 a=90%未満～70%以上 b=70%未満～50%以上 c=50%未満～30%以上 d=30%未満								得点率=課・係・施設の事業区分評価点合計÷事業区分数×25点

# 平成28年度 公益財団法人よこはまユース 事業評価

総務部 総務課

※次年度方針 ①：継続 ②：改善継続 ③：転換 ④：移管 ⑤：休止 ⑥：廃止

事業の柱 ／ 公益目的事業区分		個別事業名(含む全体)	上段:評価点 中段:得点率 下段:総合評価 ※次年度方針	事業評価委員会 評価・助言・指示内容等
C 青少年に 体験機会 や活動の 場を提供 する事業	う 体験 活動等	寄り添い型支援事業 ・かもん未来塾の運営	18/25 (72%) a ①	・困難を抱える小中学生を対象に学習支援、生活支援、総合支援が出来ている。 ・数値化(定量化)できる評価指標(定員に対する充足率、登録者の参加率による満足度、区が定める個別の支援目標に対する達成度)を試行的に導入した。29年度からは目標を設定し、定期的に効果測定を行うなど客観的な評価を実施する。
		賛助会員及び一般寄附者の拡充 ・会員募集事業 ・新春のつどい	12/25 (48%) c ②	・寄附金額は対前年比較で、団体及び個人ともに減となっている。これは会員の高齢化による寄附金の減少、新春のつどい参加者の減少が大きなき因となっている。 ・会員増、寄附金増への取り組みを検討する必要がある。また、「よこはま子ども寄り添いブック寄付金」のような会員外からの寄附の仕組みづくりが求められる。
D その他、この法人の目的を達成するために必要な事業		寄附金拡充を目的とした収益事業 ・爆笑!濱っ子寄席	13/25 (52%) b ②	・寄附金募集の一環としてチャリティー寄席を開催しているが、共催事業者とのチケット販売の連携が機能しなかったためチケット販売数が減となった。今後は共催事業のチケット販売数の配分の見直しをはじめ、販売方法を見直す必要がある。
		法人の広報・PR	14/25 (56%) b ②	・本部の情報発信が少ない中、法人唯一の情報紙である「よこはまユースレター」の充実を図るとともに、他の媒体での発信方法の検討が必要である。
		法人職員の人材育成	—	・法人が実施する研修や外部研修に職員が参加することで人材育成に取り組んでいる。
		経営業務姿勢	15/25 (60%) b ②	・寄り添い型支援事業は、5か年間の事業実施から支援の枠組みが確立されてきた。事業の評価を客観的に表す定量評価の試行的導入を図り、29年度は本格実施する。 ・寄り添い型学習支援事業や地域事業を実施する機関や団体と連携して生活支援事業に取り組む必要がある。 ・法人の収益事業として収益(寄附金)の増額を図るため、法人全体で会員や寄附金増の意識を持つ取り組みを行う。

総務部 キッズ運営課

※次年度方針 ①：継続 ②：改善継続 ③：転換 ④：移管 ⑤：休止 ⑥：廃止

事業の柱 ／ 公益目的事業区分		個別事業名(含む全体)	上段:評価点 中段:得点率 下段:総合評価 ※次年度方針	事業評価委員会 評価・助言・指示内容等
A 青少年活 動を支援 する事業	え 相談 助言	放課後キッズクラブの安定的な運営 に向けた相談、助言	17/25 (68%) b ①	・都筑区内の地域立ち上げ型NPO法人によるキッズクラブ運営を進めているはまっ子に対して、法人のキッズクラブ運営に関する経験と知識を活かし、安定的なキッズクラブ運営のための疑問や不安解消に向けた相談、助言を行った。
		はまっ子キッズ交流事業	15/25 (60%) b ①	・放課後キッズクラブスタッフが閉塞感を持たないように、キッズクラブの運営に関する情報提供、はまっ子ふれあいスクールとキッズクラブの違いに関して情報交換する機会を設けることが出来た。
B 青少年を 支える人 材を育成 する事業	い 講座 セミナー 育成	放課後3事業従事スタッフの人材育成 研修	16/25 (64%) b ①	・放課後事業に共通する研修テーマを通じて、キッズクラブ、はまっ子ふれあいスクール、放課後児童クラブなど異なる事業所の職員の交流の場を設け、職員が日々の運営を客観的に振り返る機会を創出した。
C 青少年に 体験機会 や活動の 場を提供 する事業	う 体験 活動等	放課後キッズクラブ運営	—	・26か所の放課後キッズクラブにおいて、評議会、保護者会を開催し、理解と協力を図りながら適正な運営に努めた。
		経営業務姿勢	16/25 (64%) b ①	・キッズクラブ設立に向けた不安や疑問解消など安定的な運営に向けて、法人のキッズクラブ運営に関する経験と知識を活かした、中間支援機能が発揮できている。 ・キッズクラブの運営法人の枠を超えた関係づくりを進めるとともに、放課後事業所の職員が閉塞感を持たないよう情報交換の機会を設けるなど、法人の中間支援組織としての役割を担っている。

平成28年度 公益財団法人よこはまユース 事業評価

事業部 事業係

※次年度方針 ①：継続 ②：改善継続 ③：転換 ④：移管 ⑤：休止 ⑥：廃止

事業の柱 ／ 公益目的事業区分		個別事業名(含む全体)	上段:評価点 中段:得点率 下段:総合評価 ※次年度方針	事業評価委員会 評価・助言・指示内容等
A 青少年活動を支援する事業	え 相談 助言	地域活動支援事業 ・磯子岡村地区、神奈川県神奈川区神大寺地区、十日市場中学校地域交流事業 ・活動相談（プランニング、助言）	16/25 (64%) b ②	・磯子区岡村地区、神奈川県神奈川区神大寺地区への活動運営補助金が縮小または終了する中で、自立に向けた運営体制の見直しなどの助言により、新たな取り組みが生まれている。また、新たな支援先への専門的・実用的な知識、技術の提供など居場所活動の支援が広がっている。 ・行政機関や地域、企業からの「居場所づくり」や「青少年活動」における相談に対して、法人としての中間支援機能を発揮し、助言を行っている。
		青少年を対象とした企業等の社会貢献活動支援事業	19/25 (76%) a ②	・企業が取り組む社会貢献活動を子ども・青少年の問題解決に結び付け、企業との協働が行われている。 ・新たにブックオフオンライン(株)が進める社会貢献活動制度を活用した青少年支援のための「よこはま子ども寄り添いブック寄付金」制度を立上げた。
		知っておきたい！子ども・若者どこでも講座	17/25 (68%) b ①	・学校・PTA、民生委員・児童委員、青少年指導員協議会、社会福祉協議会や地域の団体などが主催する青少年課題をテーマとした研修や講座へ講師を派遣し、講師派遣目標（55回）を達成した。 ・派遣件数55回のうち64%（35回）が新規申込みとなっており、広く利用されている。
	お 調査、 資料収 集	調査・研究事業 ・寄り添い型学習支援事業等の成果検証 ・新たな青少年育成のあり方に関する調査研究 ・YOKOHAMA EYE'S発行	16/25 (64%) b ①	・青少年のニーズと社会的課題に応じた新たな事業展開に向けて、大学や研究機関の協力による事業の成果検証や事業評価システムの検証・改善、青少年に関する調査・研究事業は、法人の中間支援組織の役割を果たす重要な事業である。 ・法人の情報誌「YOKOHAMA EYE'S」は、地域活動の紹介や事業実施の成果を伝える情報誌に改善されており、法人の中間支援機能の一端を担っている。
B 青少年を支える人材を育成する事業	い 講座 セミナー 育成	人材育成事業 ・講師派遣 ・エンパワメントセミナー（啓発講座）	16/25 (64%) b ②	・エンパワメントセミナーは、「知っておきたい！子ども・若者どこでも講座」実施団体などからのヒヤリングを基にテーマ設定したことから、参加者から高い満足度を得ている。今後は、個人で参加できる講座の特性を活かして広く広報を行い、多くの人が参加できる仕組みを工夫する必要がある。
C 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業	う 体験 活動等	自然・社会体験プログラム開発及び体験機会の提供 ・教育機関との連携事業（サインエンスプログラム、交流相談カフェ）	17/25 (68%) b ②	・高校生が小学生を対象とした自然・社会体験プログラムを企画・運営して事業展開することで、高校生の社会参加の機会と、参加する小学生の体験の機会を提供している。 ・高校中退や進路未定等のリスクを抱える高校生を対象に大学、NPOと連携して、横浜総合高校の中に相談と交流を目的とした交流相談カフェを設置した。
		自然・社会体験プログラム開発及び体験機会の提供 ・団体との連携事業	14/25 (56%) b ②	・地域の青少年育成団体や関係機関等と協力し、青少年の自然・社会体験活動を推進した。 ・高校生の水源林保全ボランティア、高校生の社会体験事業は、青少年の社会性や自主性を育む機会となっている。
		道志村と連携した自然体験プログラムの実施	15/25 (60%) b ①	・横浜の水源である道志川の水を通してつながりのある、道志村の児童を横浜に招待し、市内の小学生とのや社会見学の機会を提供し、横浜への理解を深めることができた。
		経営業務姿勢	18/25 (72%) a ②	・法人が有する知識・経験能力を地域に発信していくことは法人の大切な役割である。法人が有する資源や地域資源を活用して、地域活動を支援することや企業の社会貢献活動を支援することは、中間支援組織としての法人の役割を十分に発揮している。 ・事例研究や意識調査を通じた青少年関係の情報収集・発信の取り組みは、中間支援組織として適切な判断やコーディネート機能を発揮するための重要な取り組みである。 ・サインエンスプログラムは学校側において自立して実施できる体制となったことから、新たな学校連携への転換を検討することが必要である。 ・交流相談カフェの運営を法人が担っているが、運営を担う新たな担い手を模索する必要がある。

# 平成28年度 公益財団法人よこはまユース 事業評価

事業部 青少年の交流・活動支援事業

※次年度方針 ①：継続 ②：改善継続 ③：転換 ④：移管 ⑤：休止 ⑥：廃止

事業の柱 ／ 公益目的事業区分		個別事業名(含む全体)	上段:評価点 中段:得点率 下段:総合評価 ※次年度方針	事業評価委員会 評価・助言・指示内容等
A 青少年活動を支援する事業	あ 施設の貸与	活動支援 ・フリースペースの運営 ・諸室の貸出	17/25 (68%) b ①	・28年度に青少年が学校や地域、世代を超えた人々と出会い、交わり、つながるきっかけとなる居場所として開設した施設である。 ・利用者(目標7,000人、実績11,239人)及び稼働率(目標60%、実績60.8%)ともに目標を達成することができた。
		利用促進事業 ・インターネットやチラシ等による広報活動 ・利用促進キャンペーンの展開	14/25 (56%) b ②	・中学生、大学生世代の利用が少なく、また、一定の高校生が利用を占め、固定化し始めていることから、より多くの青少年に利用してもらうための広報活動が必要である。 ・利用案内入りポケットティッシュの配布、ツイッターによるイベントや空き室情報の発信などの取り組みによって中学生の利用も増えて、下期稼働率70%を超える月があるなど成果が出ている。
	え 相談助言	相談・助言 ・日常的な相談支援相談支援 ・個別相談 ・啓発事業	16/25 (64%) b ②	・相談は増えてきている。日常的な会話(傾聴)から家庭や学校、活動などの具体的な相談に至った場合を個別相談としているが、28年度は専門的な支援を有する相談は発生していない。 ・利用者との関係性が深まるにつれて、専門性を有する相談が発生することが予測される。
B 青少年を支える人材を育成する事業	い 講座セミナー育成	青少年サポーター育成事業	14/25 (56%) b ②	・青少年と日常的に関わりを持ち、職員及びコーディネーターと青少年をつなぐ役割を担う大学生クラスのサポーターの育成に取り組んでいる。 ・大学生クラスの青少年サポーターは11人、大人のシニアボランティアは8人登録している。
C 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業	う 体験活動等	青少年の交流・体験事業 ・交流促進事業 ・青少年チャレンジ事業 ・青少年ボランティア事業	11/25 (44%) c ②	・多様な交流プログラムを通して、世代や地域を越えた多様な人との出会いや仲間づくりを支援している。 ・プログラム実施数は増えているが、定員に対する充足率は64%と低迷していることから、情報の発信の仕方やプログラム内容を精査するなど見直し・改善が必要である。
		社会参加プログラム ・社会体験・就労体験活動 ・若者コミュニティー事業 ・青少年委員会	10/25 (40%) c ②	・社会体験を通して青少年が社会や仕事について知り、将来を考えるきっかけとなる体験を提供できている。 ・プログラムの定員に対する参加者充足率は43%となっている。今後は、若者が集まるための魅力的な企画と広報戦略を検討する必要がある。
		困難を抱える青少年の活動支援事業 ・小中学生を対象とした学習会 ・中退・不登校の中高校生を対象とした学習会	10/25 (40%) c ②	・小中学生を対象とした創作活動を支援する「みはらし教室」は、参加者のニーズがあるとともに、高校生ボランティアや障がい者のボランティアの活動の場となっている。 ・中高生の学習支援については、ケースワーカーからの紹介の減少と紹介された青少年とつながらない状況となっており、継続して参加する青少年がほとんどいない。
経営業務姿勢			15/25 (60%) b ②	・新規施設として利用者数、稼働率とも目標を達成できたことは成果である。一方、利用者の固定化がみられることから、誰でも気軽に立ち寄れる場となるよう、近隣の中学校・高校への利用促進活動を進める。 ・相談支援事業では、専門的な支援を有する相談が発生した場合でも、適切な支援が行えるよう、専門相談機関との連携を強化する必要がある。 ・青少年が多様な世代の人々と交流する機会や地域の大人とつながる機会、社会参加する機会を用意することは、青少年自身が将来を考えたり、社会の一員として自覚し自立したりしていくためには大変重要な取り組みであることから、今後も取り組みを継続する。

平成28年度 公益財団法人よこはまユース 事業評価

事業部 横浜市青少年育成センター

※次年度方針 ①：継続 ②：改善継続 ③：転換 ④：移管 ⑤：休止 ⑥：廃止

事業の柱 ／ 公益目的事業区分		個別事業名(含む全体)	上段:評価点 中段:得点率 下段:総合評価 ※次年度方針	事業評価委員会 評価・助言・指示内容等
A 青少年活 動を支援 する事業	あ 施設の 貸与	諸室及び物品の貸出	13/25 (52%) b ①	・稼働率は対前年度1.4%減、利用人数で5,237人の減となっている。 ・利用団体の傾向としては、団体の小規模化、細分化が進んでいる。また、28年度の減の理由としては、センターが29年度下半期に休館することを受けて、団体において29年度の活動場所を他に変更している傾向が見受けられる。また、「利用登録したが、なかなか予約がとれない」といった声が利用者から聞かれ、飽和状態にある。
	え 相談 助言	青少年育成や市民活動等にかかる相談・コーディネート ・相談・コーディネート ・情報提供（情報コーナーの運営）	9/25 (36%) c ②	・青少年育成やボランティア・市民活動に係る相談窓口を開設しているが、相談件数が対前年度26件減の51件となっている。 ・他に相談機関が整備される中、求められる相談・コーディネートの再構築が必要である。
B 青少年を 支える人 材を育成 する事業	い 講座 セミ ナー 育成	課題解決に結び付けることができる人材の育成と研修 ・ユース コーディネーターの養成研修 ・ユース コーディネーターの認定制度に向けた取組	14/25 (56%) b ②	・ユースコーディネーター認定制度導入を踏まえて、必要とする講座・研修内容を企画することが必要である。
		人材のすそ野を広げるための講座・研修 ・青少年の居場所づくり講座 ・スキルアップ研修	16/25 (64%) b ②	・地域における青少年を支える人材のすそ野を広げる講座となっている。 ・コーチング入門講座は、幅広い層からのニーズが高く、また、高い援助技術であることから、定員を大幅に上回る参加申し込みがある。参加者からは満足度の高い評価を頂いている。
		啓発事業 ・よこはまユース・シンポジウム ・地域等へのアウトリーチ	15/25 (60%) b ⑤	・青少年支援の先駆的課題をテーマに取り上げ、幅広い層の市民が参加できるシンポジウムを開催し、青少年支援への関心を高め、青少年を支える人材のすそ野を広げていくことは法人の事業として必要である。
		人材育成のためのネットワーク形成 ・団体連携事業 ・よこはまユースゼミ	15/25 (60%) b ②	・青少年に関わる活動を行っている施設や団体が集う大交流会の開催は、参加者相互の交流やネットワークを発展させる会となっており、青少年育成に携わる支援者のネットワーク組織として発展する取り組みである。
		活動充実のための研修事業 ・ステップアップ研修 ・専門研修	11/25 (44%) c ②	・コーチング入門講座の受講者に限定してスキルアップ講座を実施したが、入門講座開催の広報時に当該講座の日程・講座内容が広報出来ていなかった。広報の仕方を再検討する必要がある。
		青少年育成活動の担い手の養成 ・馬車道力レッジ ・きずな夏祭り	8/25 (32%) c ⑤	・社会人となった若者が青少年活動を体験することで、地域活動への参加を促すことを目指して事業を企画したが、他の類似講座との差別化が図れなかったこと、企画の魅力を伝えられなかったことなどから、参加者が伸びない中で連続講座を行った。事業の見直しが必要である。
		経営業務姿勢	15/25 (60%) b ②	・センターにはどのような相談・コーディネートが求められているのか、支援者や指導者のニーズを把握し、相談・コーディネート体制を見直す必要がある。 ・青少年育成に携わる支援者が集う大交流会は、活動を行っている団体の相互の交流の場、ネットワーク組織の場となるなど、法人の中間支援機能を発揮する場となっている。 ・青少年支援への関心を高め、青少年を支える人材のすそ野を広げていくことは、法人の中間支援組織としての使命である。

平成28年度 公益財団法人よこはまユース 事業評価

事業部 横浜市野島青少年研修センター

※次年度方針 ①：継続 ②：改善継続 ③：転換 ④：移管 ⑤：休止 ⑥：廃止

事業の柱 ／ 公益目的事業区分		個別事業名(含む全体)	上段:評価点 中段:得点率 下段:総合評価 ※次年度方針	事業評価委員会 評価・助言・指示内容等
A 青少年活動を支援する事業	あ 施設の貸与	施設・設備貸出事業	17/25 (68%) b ①	<ul style="list-style-type: none"> <li>稼働率は0.2%増となり、宿泊利用人数は3.8%増の20,965人であったが、日帰り利用者数は25.2%減の8,247人となった。</li> <li>日帰り利用者減の主な理由は、屋外での体験プログラム実施した学校が、屋内での体験学習を行わなかったことによる。</li> <li>職員間で利用状況などの情報の共有化を図り、利用者への対応の統一化に努めた。</li> </ul>
		利用促進事業	14/25 (56%) b ②	<ul style="list-style-type: none"> <li>宿泊利用者数は若干の増となったが、日帰り利用者数は大幅に減となった。</li> <li>新規利用団体は増えたが年間利用団体数の増加には結びついていない。</li> <li>小中学校への体験学習の利用促進や、高校・大学・企業への誘致活動などを行ったが十分な成果が得られなかった。そのため、紙媒体をつかった広告掲載、高校・大学への部活動、サークル活動への誘致など更なる広報活動が必要である。</li> </ul>
	お 調査、資料収集	体験プログラムの調査研究	15/25 (60%) b ②	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域連携・地域貢献の一環として、関東学院大学栄養学部と連携した栄養に関する専門知識を活かした、新たな食事プログラム開発を行った。</li> <li>体験プログラムを利用した利用者に対してヒヤリングを行い、新たなプログラム開発につなげる必要がある。</li> </ul>
B 青少年を支える人材を育成する事業	い 講座セミナー育成	青少年指導者育成者研修 ・指導者・育成者への情報提供、相談対応 ・指導者・育成者を対象とした講習会	15/25 (60%) b ②	<ul style="list-style-type: none"> <li>講習会のレクリエーション編は、開催時期を工夫したことにより参加者の充足率が高かったが、一方、水辺の安全編は実施時期の工夫が必要である。</li> <li>情報提供、相談対応では、研修及び人材育成についての問い合わせの実績がなく、研修・人材育成の相談窓口について周知することが必要である。</li> </ul>
		ボランティアの養成	16/25 (64%) b ①	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設ボランティアを養成するため、高校生・大学生等に社会体験の場を提供するとともに、シニア層に呼びかけた結果、シニアボランティアの活動によって体験プログラムの充実が図れた。</li> </ul>
C 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業	う 体験活動等	体験プログラムの提供 ・施設特性を活かしたプログラム ・自然環境を活かしたプログラム ・地域産業と連携したプログラム ・防災プログラム	18/25 (72%) a ①	<ul style="list-style-type: none"> <li>野島の自然を活かした体験プログラム、漁港、大学等の社会資源を活用した体験プログラムなど教育カリキュラムに合った体験プログラムを提供し、小中学校の効果的な宿泊体験学習を支援した。</li> <li>体験学習を行う学校以外の一般団体の体験プログラム利用が増え、多くの青少年に体験機会が提供できている。</li> <li>災害に備えて、金沢区災害ボランティアネットワークと隣隣学校の学生とともに、防災プログラムを作成し、こども防災キャンプを実施した。</li> </ul>
		市民活動団体との協働した体験プログラムの実施 ・自然体験キャンプの実施 ・自然体験・文化体験教室の実施 ・野島海岸の保全活動	15/25 (60%) b ①	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人や家族で参加できる体験事業や、自分に挑戦するアドベンチャー体験を通じて、仲間との交流や協調性・社会性を育む機会を提供できている。</li> <li>自然体験機会を通じて、自然や地域への関心を高めることにつながっている。</li> <li>料理体験教室の実施に際しては、他の施設で行っている類似体験教室との差別化を図る必要がある。</li> <li>野島海岸の清掃活動を通じて、自然保護を図りながら、地域との連携・地域への貢献が図られている。</li> </ul>
		困難を抱える青少年のための体験活動の支援 ・ハートフルスペース宿泊体験 ・野島クリスマスキャンプ2016 ・困難を抱える青少年を対象とした宿泊キャンプの実施 ・職業体験活動の受入れ	17/25 (68%) b ②	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハートフルスペース（教育委員会）と連携した宿泊体験活動は、児童生徒が体験活動を通じて、自己をみつめ自信を回復し、コミュニケーション能力を育む機会となっている。</li> <li>個別支援学級の児童・生徒が生活体験、集団活動を通して交流を図り、障がい者やその保護者、青少年ボランティア相互の理解を深める機会となっている。</li> <li>養育環境に課題があり、支援を必要とする家庭に育つ小中学生が生活体験、自然体験をすることで自信と自己肯定感を持つことができている。</li> <li>中学校個別支援級が行う職業体験学習を受入れ、意欲と自信を育む機会となっている。</li> </ul>
		地域交流事業 ・災害ボランティアネットワークへの参加 ・地域住民と連携した文化活動教室の実施 ・地域との防災の取り組み	15/25 (60%) b ①	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修センターが地域の一員として地域行事に参加することで、地域との交流が深まり、研修センターの活動への理解と研修センター事業への地域ボランティアの参加が増える機会となった。</li> </ul>
		経営業務姿勢	16/25 (64%) b ①	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用団体との事前の打ち合わせを綿密に行った結果、利用者の高い満足度が得られた。</li> <li>利用者獲得に向けて大学のサークル活動での合宿利用や企業による研修利用などに向けて広報活動を行ったが、大きな効果が得られなかったことから、既存プログラムの内容見直し、新たなプログラムの開発を進め、新たな利用層の獲得策が求められる。</li> <li>事業や体験プログラムに関わるボランティアを養成するためには、活動目的及び活動内容を明確にする必要がある。</li> </ul>

### Ⅲ 事業一覽

#### 総務課

事業の柱	公益目的 事業区分	事業名	内容	実施状況
C 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業	う 体験活動等	寄り添い型支援事業	安定した生活基盤や学習機会が十分に与えられず困難を抱えている小中学生を対象に「気づき、やる気、希望」を引き出す寄り添い型支援を地域や専門機関との連携により実施しました。 ・かもん未来塾の運営	登録：14人 体験プログラム：6回
D その他、この法人の目的を達成するために必要な事業		賛助会員及び一般寄附者の拡充	賛助会員と一般寄附者の新規開拓並びに寄附拡充をめざし、施設と活用した会員募集事業の実施、会員及び事業協力者の交流の場の提供に努めました。 ①会員募集事業 ・カヌー教室 ②新春のつどい	①5月/1回 ②1月
		寄附金拡充を目的とした収益事業	日頃、青少年活動に関わりのない市民の方にも本事業に関わることで、法人事業の理解と青少年活動への関心を深めました。 爆笑！濱っ子寄席（チャリティー寄席） 【収益事業】	11月
		法人の広報・PR	法人活動並びに寄附金を活用した事業を発信することで、青少年育成の理解と関心につなげました。 ①よこはまユースレター(法人情報紙) ②法人ホームページの維持・管理	①3回 6・9月合併号 12月号 3月号 計:33,000部 ②通年
		法人職員の人材育成	職員として身に付けるべき技能・力量形成に必要な研修(実務、管理、マネージメント)を実施しました。 ①新採用職員研修 ②実務専門研修 ③管理職研修 ④人権研修	①4回 4, 10, 11, 12月 ②随時 ③2月 ④12, 2月

平成28年度 公益財団法人よこはまユース 事業報告

キッズ運営課

事業の柱	公益目的 事業区分	事業名	内容	実施状況
A 青少年活動を支援する事業	え 相談、助言	放課後キッズクラブの安定的な運営に向けた相談、助言	当法人の放課後キッズクラブ運営の実績を活かし、地域立ち上げ型NPO法人等を対象に、必要な助言やノウハウを伝達しました。はまっ子ふれあいスクールから放課後キッズクラブへの円滑な移行および移行後の安定運営に向けた支援を行いました。	5団体24件 都筑区情報交換会 6,1月/2回 講習会 3月/1回 広報紙発行 9,10,12,3月/4回
		はまっ子・キッズ交流事業	運営法人の枠を超えた関係づくりに向けて、はまっ子ふれあいスクールと放課後キッズクラブ双方の運営内容の違いや課題を確認し、不安軽減につなげました。	1月/4回
B 青少年を支える人材を育成する事業	い 講座、セミナー、育成	放課後3事業スタッフ人材育成研修	放課後事業に関わる中で必要となる実践的内容として、現場での危機予知をテーマにした研修を実施しました。	1,2月/2回
C 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業	う 体験活動等	放課後キッズクラブ運営	<p>児童の自主性や主体性・創造性を培い、安全、人権、教育に配慮しながら、市内17区26か所の放課後キッズクラブの安定的な運営を行ないました。</p> <p>また、平成19年度開設放課後キッズクラブ（1か所）の運営法人再選定に応募し選定されました。</p> <p>①学校教育では得られない体験プログラムや発達に応じたプログラム等を実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・異年齢交流につながるプログラム</li> <li>・季節行事にちなんだプログラム</li> <li>・親子参加プログラム</li> <li>・地域や他団体等との連携プログラム</li> <li>・スポーツ、文化活動、食育、環境プログラム等</li> </ul> <p>②評議会、保護者会の開催</p> <p>③主任・副主任会議の開催</p> <p>④近隣の放課後事業所等との情報交換や合同スタッフ研修、交流プログラムの実施</p>	<p>①4,919回 (26か所計)</p> <p>②評議会 /52回(年2回) 保護者会 /53回(年2回以上)</p> <p>③17回</p> <p>④情報交換会 /7回 交流プログラム /6回</p>
		人材育成 (スタッフ研修)	<p>研修を通じて、放課後児童育成に関わるスタッフとして必要な知識や技能の習得・向上を図りました。</p> <p>①主任・副主任を対象に、運営に必要な事務研修のほか、児童や保護者対応など実践的な研修を実施しました。</p> <p>②非常勤職員を対象に、具体的事例をもとにした振り返りとブラッシュアップを目指した研修を実施しました。</p>	<p>①9回</p> <p>②3回</p>
		ボランティア・高校生インターンシップ受け入れ	法人本部や運営施設と連携し、ボランティア活動希望者や社会貢献活動実習生を受け入れました。	高校生 インターンシップ 5校6人
		放課後キッズクラブの拡充	全はまっ子ふれあいスクールの放課後キッズクラブ移行という市の施策を受け、新設される放課後キッズクラブ運営法人募集状況（移行数・対象校など）を勘案し、対応しました。	応募1校 (選外)



事業係(1/2)

事業の柱	公益目的 事業区分	事業名	内容	実施状況
A 青少年活動を支援する事業	え 相談、助言	地域活動支援事業	地域の団体による「居場所づくり」等の青少年育成活動を支援しました。継続的な活動に向けて運営を支援するほか、活動相談を通して活動のプランニングや助言を行いました。 ①地域の青少年育成活動の推進・支援 磯子区岡村地区／神奈川県神大寺地区／十日市場中学校地域交流事業 ②活動相談（プランニング・助言）	①活動支援 30回  ②56件 青少年育成25件 居場所づくり18件 プランニング13件
		青少年を対象とした企業等の社会貢献活動支援事業	企業等が取り組む青少年育成をテーマとした社会貢献活動の推進・支援および、ニーズ把握やプログラム開発に取り組みました。 ①社会貢献活動の支援・推進 ②社会貢献プログラムの検討・開発、ニーズ把握	①活動支援4件 ②情報発信支援 社会貢献活動調査2件 社会貢献活動調査2件
		知っておきたい！ 子ども・若者どこでも講座	青少年指導員、民生委員・児童委員やPTA、学校および青少年育成団体等が実施する青少年課題（薬物、インターネット、性、非行、自立支援等）をテーマとした研修に講師を派遣・コーディネートすることで青少年理解や地域力の向上を図りました。	6月～3月 /55件
	お 調査、資料収集	調査・研究事業	青少年に関する調査・研究機能の充実および成果の発信により、青少年のニーズと社会的課題に応じた新規事業の開発に努めました。 上半期は、困難を抱える青少年を支援する関係団体と事例研究会を実施しました。 ①寄り添い型学習等支援事業等の成果検証 ②困難を抱える青少年を支援する事業の検討と開発 ③事業評価システム検証・改善 ④調査研究事業の成果をまとめた報告書「YOKOHAMA EYE`S」の発行	①連絡会への参加 ②研究会3回 ③未実施 ④アンケート調査実施 報告書1,200部発行
B 青少年を支える人材を育成する事業	い 講座、セミナー、育成	人材育成事業	地域・学校・企業のニーズに応じた研修のコーディネートや職員派遣、市民向け啓発事業を通して、青少年の支援に関わる人材の育成に取り組みました。 ①研修・講座への講師（職員）派遣 ②子ども・若者エンパワメントセミナー テーマ「自尊感情を育む共有体験」講師：近藤 卓 氏	①講師派遣 28件 ②7月実施 198人

平成28年度 公益財団法人よこはまユース 事業報告

事業係(2/2)

事業の柱	公益目的 事業区分	事業名	内容	実施状況
C 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業	う 体験活動等	自然・社会体験プログラムの開発及び体験機会の提供	横浜市内の自然環境や社会資源を活用した体験活動プログラムを実施しました。	
		団体との連携事業	青少年育成団体など市民団体や関係機関等と協働して、主に市内の活動資源を活かした体験活動の機会を提供しました。 ①市民団体や企業・行政と協働した体験プログラム ②高校生水源林保全ボランティア ③高校生の社会体験プログラムの開発 ④自然・社会体験活動の推進	①6月実施 ②8月実施 ③2件 ④3月実施
		教育機関との連携事業	市内の教育機関と協働・連携し、青少年が主体的に参加できるプログラムの実施や、リスクを抱える青少年の支援に取り組みました。 ①小・中学生を対象とした体験プログラムの実施 ・横浜サイエンスフロンティア高校(6, 1, 3月) ・みなと総合高校(2月) ②中退や進路未定などのリスクを抱える高校生への支援(横浜総合高校と連携)	①体験 6月生物観察会 1月天文教室 2月方格子 3月ロボット教室 ②カフェ 6~9月準備 10~3月実施
		道志村と連携した社会体験・交流プログラムの実施	道志村と横浜市の友好交流を促進するために道志村児童の受入事業を実施しました。	10月実施

青少年の交流・活動支援事業

事業の柱	公益目的 事業区分	事業名	内容	実施状況
A 青少年活動を支援する 事業	あ 施設の貸与	活動支援事業	<p>青少年が気軽に安心して過ごすことのできる居場所を提供しました。また、利用者の要望に合わせた柔軟なサービスを提供しました。</p> <p>①フリースペースの運営 ②諸室の貸出</p>	<p>①フリースペース 利用人数 8,831人 ②諸室貸出 稼働率 60.8% 利用人数 48,097人</p>
		利用促進事業	<p>多くの青少年に居場所および活動の機会を提供するため、情報発信の充実に努めました。</p> <p>①インターネットやチラシ等による広報活動 ②利用促進キャンペーンの展開 ※愛称決定(6月) さくらリビング</p>	<p>①通年 Twitter開始 ②5~9月実施</p>
	え 相談、助言	相談支援事業	<p>青少年に対する日常的な相談・助言、傾聴を行い、信頼関係を築くとともに、具体的な課題については、個別相談により対応しました。</p> <p>①日常的な相談支援事業 ②個別相談事業 ③啓発事業(相談カフェ、保護者セミナー等)</p>	<p>①相談497件 ②個別相談 129件 ③2~3月実施</p>
B 青少年を支える人材を育成する事業	い 講座、セミナー、 育成	青少年サポーター育成事業	<p>青少年が気軽に相談できる環境を作るため、スタッフと青少年とをつなぐ、大学生以上の青年ボランティアスタッフ等を養成しました。</p> <p>①青少年サポーター事業 ②シニアボランティア育成事業</p>	<p>①登録11人 ②活動者 延べ284人</p>
C 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業	う 体験活動等	青少年の交流・体験事業	<p>世代や地域を越えた多様な人との出会いや多様な体験プログラムを通して、青少年の交流機会や自己成長の機会を提供しました。</p> <p>①交流促進事業 ②青少年チャレンジ事業 ③青少年ボランティア体験事業</p>	<p>①19回実施 延べ111人 ②15回実施 延べ62人 ③11回実施 延べ62人</p>
		社会参加プログラム	<p>社会体験を通して、青少年が社会や仕事について知り、将来を考えるきっかけとなる体験機会を提供しました。青少年委員会は12月に発足しました。</p> <p>①社会体験・就労体験事業 ②若者コミュニティ事業 ③青少年委員会の運営</p>	<p>①4回実施 延べ33人 ②42回実施 延べ174人 ③委員登録 7人</p>
		困難を抱える青少年の支援事業	<p>「居場所」でのつながりを通して、潜在的な課題やリスクを抱える青少年を支援しました。</p> <p>①小中学生を対象とした学習会 ②中退・不登校の中高生を対象とした学習会 ③市内の支援活動等の調査・研究</p>	<p>①47回実施 延べ244人 ②9回実施 延べ55人 ③未実施</p>

横浜市青少年育成センター(1/2)

事業の柱	公益目的 事業区分	事業名	内容	実施状況
A 青少年活動を支援する事業	あ 施設の貸与	諸室及び物品の貸出	<p>研修室や機材、印刷機、着ぐるみなどの貸出を行うことで、地域の青少年活動を支援しました。また、WEBを活用した情報提供やロッカーの設置などのサービス向上に努め、利用促進に取り組みました。</p> <p>①研修室や機材、印刷機等の貸出 ②利用者サービスの向上および利用促進（広報紙、ロッカー、ニーズの反映 他） ③防災・防犯（訓練等の実施） 等</p>	<p>稼働率 74.3%</p> <p>利用件数 5,033件</p> <p>利用人数 59,449人</p> <p>①通年 ②通年 ③2回(6,2月)</p>
	え 相談、助言	相談・コーディネート	<p>青少年育成や、ボランティア・市民活動等にかかる相談窓口として「解決に向かってともに考える」姿勢を基本に、活動コーディネーターや情報収集、スタッフ研修に取り組みました。</p> <p>①相談窓口の開設 ②青少年育成や市民活動等にかかるコーディネーター ③相談スタッフの養成研修</p>	<p>①通年 ②相談件数 51件 ③2回 (7,2月)</p>
		情報提供(情報コーナーの運営)	<p>青少年育成にかかる研修や活動情報、図書などが閲覧・収集できる「情報コーナー」を運営するとともに青少年関係情報を発信しています。また、収集した情報を、事業係に提供し調査・研究等に活用しました。</p> <p>①情報コーナーの運営 ②情報収集、情報発信および調査・研究</p>	<p>①通年 ②通年</p>
B 青少年を支える人材を育成する事業	い 講座、セミナー、育成	課題解決に結び付けることができる人材の育成と支援	<p>青少年を取り巻く課題を正しく理解し、必要に応じて専門機関や社会資源などにつなぐ人材を養成しました。また、活動を充実させる環境を整えるため、研修の体系化を行うほか、ユースコーディネーター認定制度に向けた準備を行いました。</p> <p>①ユースコーディネーターの養成（連続講座） ②ユースコーディネーター認定制度に向けた準備（認定制度のあり方調査）</p>	<p>①11,12月 /4回 参加者 延べ95人 ②3箇所 (2,3月)</p>
		人材のすそ野を広げるための講座・研修	<p>地域で青少年に関わる人材を増やすため、主に初任者を対象とした研修を実施しました。</p> <p>地域等において青少年の「居場所」のあり方について実践からヒントを得る連続講座のほか、活動に役立つ考え方や手法を学ぶ研修を実施しました。</p> <p>①青少年の居場所づくり講座（連続講座） ②スキルアップ研修（7講座）</p>	<p>①8~9月 /4回 参加者 延べ91人 ②6~2月 /12回</p>
		啓発事業	<p>今日的なテーマを取り上げ、広く市民が参加できるシンポジウムを実施するほか、必要に応じて地域等に出向き“青少年支援”の社会的認知拡大に向けて取り組みましたが、事業の実施には至りませんでした。</p> <p>①ユースシンポジウム ②地域等ヘアウトリーチ（ニーズ把握と講座開発）</p>	<p>①3月 参加者 60人 ②未実施</p>

平成28年度 公益財団法人よこはまユース 事業報告

横浜市青少年育成センター(2/2)

事業の柱	公益目的 事業区分	事業名	内容	実施状況
B 青少年を支える人材を育成する事業	い 講座、セミナー、育成	人材育成のためのネットワークの形成	テーマ別・経験別など、関心や課題・目的ごとに気軽に意見交換できる機会を設けました。また、課題やノウハウなどを情報交換できる、団体や施設ごとのネットワークを推進しました。 ①よこはまユースゼミ ②団体連携事業 (青少年活動団体のための大交流会)	①7~3月 /5回 参加者 延べ40人 ②2月/1回 参加者 65人
		活動充実のための研修事業	青少年育成に関する専門的知識やスキルを学ぶ機会を提供することで、より幅広いニーズに応えました。 ①ステップアップ研修(コーチング入門講座) ②専門研修	①11月 参加者 16人 ②2月 参加者 14人
		青少年育成活動の担い手の養成	青少年育成活動の拡がりや充実のために、次世代の担い手となる若者が、ボランティアや講座等に参加する機会を設け、地域活動や社会参加に関心を持つきっかけづくりを提供しました。 ①馬車道カレッジ ②ユースチャレンジ「きずな夏祭り」	①8~10月 /4回 参加者 延べ8人 ②8月(2日間) 参加者 延べ65人

横浜市野島青少年研修センター

事業の柱	公益目的 事業区分	事業名	内容	実施状況
A 青少年活動を支援する事業	あ 施設の貸与	施設・設備貸出事業	活動目的や団体特性に配慮した柔軟な対応を行い、安全性、快適性、利便性を高めました。 ①施設・設備の快適性と安全性の向上 ②プログラムの相談・コーディネート ③利便性を高める利用者サービスの向上 食事サービス/教材等の貸出、物品販売 ④活動風景の発信	稼働率 80.5% 利用件数 644件 利用人数 29,212人
		利用促進事業	より多くの青少年や指導者に体験活動や研修の機会を提供するため、計画的かつ多角的に利用促進に取り組みました。 ①学校宿泊体験活動の利用促進 ②閑散期の大学や企業等の誘致活動	新規利用57団体 ①宿泊84校 ②チラシ配布 833ヶ所 広告掲載2回
	お 調査、資料収集	体験プログラムの調査研究	効果的な体験プログラムについて検証し、体験プログラムの改善・充実を図りました。 ①体験プログラムの検証(学校や利用者へのニーズ調査) ②体験プログラムの改善・充実	①5~11月 ②通年
B 青少年を支える人材を育成する事業	い 講座、セミナー、育成	青少年指導者育成者研修	情報提供や相談対応を行うとともに、講習会を実施し、青少年指導者・育成者が快適かつ効果的な研修活動ができるよう支援しました。 ①指導者・育成者への情報提供、相談対応 ②指導者・育成者を対象とした講習会の実施	①通年 ②5月 42人 6月 18人
		ボランティアの養成	青少年により多くの交流や体験機会を提供できるよう、高校生からシニアまでの層のボランティアを養成しました。 ①事業や体験プログラムにおけるボランティアの受け入れと支援	通年/214回 延べ904人
C 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業	う 体験活動等	体験プログラムの提供	学校の教育カリキュラムや利用者のニーズに応じた体験プログラムを開発・提供しました。 ①施設特性を活かしたプログラム ②自然環境を活かしたプログラム ③地域産業と連携したプログラム ④防災プログラム	①189回 延べ13,483人 ②226回 延べ14,375人 ③77団体 ④4回 延べ264人
		市民活動団体と協働した体験プログラム	学校や他団体と連携を図ることで、青少年に安全かつ充実した体験機会を提供しました。また、周辺地域の環境保全に取り組みました。 ①自然体験キャンプの実施(短期、長期2泊3日) ②自然体験・文化体験教室の実施(日帰り) ③野島海岸の保全活動	①5回 延べ148人 ②6回 延べ106人 ③5回 延べ331人
		困難を抱える青少年のための体験活動支援	困難を抱える青少年に、生活体験や集団活動の機会を提供し、コミュニケーション能力の向上や自信回復を図りました。 ①不登校児童生徒の宿泊体験の実施 ②障がいのある児童生徒の宿泊体験の実施 ③困難を抱える青少年を対象とした宿泊キャンプの実施	①11月 106人 ②11,12月 延べ383人 ③5回 延べ121人
		地域交流事業	施設の活動及び青少年に対する理解を深めてもらうため、近隣地域と交流を深めました。 ①地域ネットワーク会議の実施 ②地域住民と連携した文化活動教室の実施 ③地域との防災への取組み	①2回 延べ13人 ②2回 延べ132人 ③15回 延べ132人

IV 各課・施設の事業報告

C:青少年に体験機会や活動の場を提供する事業 う:体験活動等

事業名	寄り添い型支援事業 かもん未来塾の運営(西区受託事業)		
日時/回数	通年 月～金 11時～19時(火:21時)	場所	西区かもん未来塾(西区中央)
対象	西区が支援を必要と判断した困難を抱える小中学生	参加者	14人(小学生:6人、中学生8人)
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・困難を抱える小中学生を対象に「気づき・やる気・希望」を引き出す。</li> <li>・他者との関係性を築きながら自らが安心していられる場(居場所)を提供する。</li> <li>・地域や専門機関と連携し、子どもを見守る地域の環境を築く。</li> </ul>		
実施内容	<p><b>【実施内容】</b>                  区が指定した生活保護家庭の児童生徒を中心に学習支援、生活支援、総合支援を実施した。                  ①学習支援:宿題・課題など日々の学習や補習を支援。定期テスト対策や進学支援(高校見学など)。                  ②生活支援:手洗い・うがい、片付けなど生活の基本行動の第一歩から始め、個々の成長に合わせて指導。(植物観察や調理実習、棚づくり)                  ③総合支援:季節ごとのプログラムの実施(5月柏餅づくり体験、8月映画鑑賞会・コリントゲーム作り、12月Xmasパーティー、1月映画鑑賞会、3月わくわく体験キャンプへの参加、その他:誕生会)。保護者を含めた相談支援 等</p> <p><b>【ボランティア】</b> 6人  <b>【協働、連携】</b> 西区役所福祉保健センター(生活支援課、こども家庭支援課)  <b>【その他】</b>                  ・ 定量化評価の試行的導入:定員に対する充足率、登録者の参加率による満足度、区が定める個別の支援目標に対する達成度                  ・ 法人本部との定例ミーティングの実施(2カ月に1回)</p>		

D:その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

事業名	賛助会員及び一般寄附者の拡充 賛助会員制度を含む寄附金制度の充実		
日時/回数	通年		
対象	市民		
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人活動への関心、理解を促す(活動報告、新規取組の報告など)</li> <li>・青少年育成寄附金募集及び賛助会員の獲得</li> <li>・寄附の使途、実績を賛助会員が確認する機会を設け、寄附者の満足度を高める</li> <li>・会員との直接交流の場を設け、顔の見える関係づくりを行い、さらなる協力者を募る</li> </ul>		
実施内容	<p><b>【募集、報告】</b>                  ・寄附金募集案内等の発送、配布                  賛助会員:9月・12月・3月 事業参加者/協力者:随時                  ・賛助会員対象事業「カヌー体験教室(野島研修C連携)」の実施:5/28(土) 参加者数:6人                  ・賛助会員・寄附金及び活用実績の報告(ユースレター、新春のつどい)  <b>【相互交流と謝意の場の提供】</b>                  ・新春のつどいの実施 1/25(水) 会場:ブリーズベイホテル 参加者数:78人  <b>【賛助会員数】</b> 738件(個人511件、団体227件)*昨年度738件  <b>【寄付金額(賛助会費、特定寄附金含)】</b> 1,503,346円                  (個人1,021,000円、団体452,093円、ブックオフオンライン30,253円)</p>		
事業名	寄附金拡充を目的とした収益事業 第56回爆笑!濱っ子寄席 (収益事業)		
日時/回数	11/18(金)18時30分～21時	場所	関内ホール 大ホール
対象	賛助会員及び市民	参加者	723人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人事業について企業や連携団体等に対し協力、理解を促す</li> <li>・賛助会員を中心とした市民に、法人事業を理解していただき寄附金を募る機会とする。</li> </ul>		
実施内容	<p>■ユース賛助会員及び市民を対象とした寄附金募集の一環として実施しているチャリティー寄席                  ・主催:よこはまユース、横浜中法人会                  ・共催:こども青少年局、横浜青年会議所</p> <p>■実行委員会形式による運営(地域企業や団体と実行委員会を組織し、会議により企画や運営方法等を逐次協議)  <b>【実行委員会の実施】</b> 5/19(木)、7/21(木)、10/19(水)、2/22(水)  <b>【チケット販売数】</b> S席3,500円356枚、A席2,500円287枚、B席1,000円72枚 計715枚(昨年度:845枚)                  (会員先行予約9/26～、一般予約10/3～) *昨年度からS席を12席増。  <b>【入場者数】</b> 723人(昨年度:787人)  <b>【広告等協賛数】</b> 広告45件、後援協賛5件  <b>【出演者】</b> 柳家ほたる、すず風にゃん子・金魚、三遊亭歌之介、三遊亭圓歌、三遊亭小円歌、柳家権太楼 (全6組)  <b>【当日募金(寄附金)額】</b> 募金箱127,000円(うち手ぬぐい募金*新設 42,000円) (昨年度:64,127円)  <b>【収益(寄附金繰入額)】</b> 338,356円  <b>【後援】</b>                  横浜金沢みどりロータリークラブ/横浜港南台ロータリークラブ/横浜みなとみらいライオンズクラブ/横浜南ロータリークラブ                  横浜ロータリークラブ</p>		

事業名	法人の広報・PR		
日時/回数	通年(4～9月)	媒体	法人情報紙/法人ホームページ
対象	会員、寄付者、市民等		
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人全体の広報戦略の一環としてWebを活用しさまざまな情報を発信する。</li> <li>・各施設や部門における事業をアピールし、参加者増加につなげる。</li> </ul>		
実施内容	<p>①よこはまユースレター(法人情報紙)の発行</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業や運営に関する情報等を周知し、賛助会員並びに寄附、事業協力者へ報告した。</li> <li>・法人の事業を幅広くPRするために市民に配布した。スポット事業の特集を行った(さくらリビング2回、よこはまブック寄付金)。</li> <li>・発行回：3回(6,9月合併号、12月号、3月号)</li> </ul> <p><b>【体裁】</b></p> <p>A4版カラー両面、各11,000部発行(年間：33,000部)</p> <p>②法人ホームページの維持・管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施事業等告知とレポート掲載(主に各課が行う進行状況や掲載文の確認、本部事業の掲載)</li> <li>・ホームページの管理(委託事業者への連絡調整、メンテナンス管理、各事業所の運用管理 等)</li> <li>・法人情報の公開(予算決算・事業計画等/求人情報 他)</li> <li>・アクセス数の管理(トップページビジット数：275,059vt、ページビューTOP10の共有)</li> <li>・法人活動情報の発信回数：月平均17回</li> </ul>		
事業名	法人職員の人材育成		
対象	法人職員(時給職員を除く)		
実施内容	<p>《研修》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規採用指導員研修(4月、10月、11月、12月) 延べ17人</li> <li>・実務専門研修(個人情報保護研修、外部研修含む) 67回 延べ417人</li> <li>・管理職研修(外部研修：2月)3人</li> <li>・人権研修(12月、2月) 4回53人</li> </ul> <p>《4団体相互事業評価》</p> <p><b>【実施内容】</b></p> <p>都市規模や事業内容等が類似する4つの団体の職員により、青少年支援関係事業における適切な評価指標やフォーマットや、職員の専門性とその養成方法を検討した。※子ども・若者支援専門職養成研究所(平成25～28年度科学研究費補助金)の研究の一環として実施。</p> <p><b>【連携・協働】</b></p> <p>奈良教育大学、京都市ユースサービス協会、さっぽろ青少年女性活動協会、こうべユースネット 他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4/13(水)～14(木) 神戸開催 3人参加</li> <li>・5/15(日) 京都開催 1人参加</li> <li>・6/4(土)～5(日) 東京開催 3人参加</li> <li>・9/17(土)～18(日) 弘前開催 1人参加</li> <li>・1/20(金)～21(土) 京都開催 3人参加</li> </ul>		



A:青少年活動を支援する事業 え:相談、助言

事業名	放課後キッズクラブの安定的な運営に向けた相談、助言 都筑区放課後キッズクラブ運営NPO法人設立支援等業務		
日時/回数	通年		
対象	都筑区内はまっ子ふれあいスクール12校及び放課後キッズクラブ2校		
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校放課後キッズクラブ転換という市の施策の推進を受け、中間支援的役割を担う。</li> <li>・放課後キッズクラブ運営に関する経験と知識を生かして、安定的なキッズクラブが運営できるように疑問や不安解消に向けた支援を行う。</li> </ul>		
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談支援 22件 3法人 (荏田南小キッズ、北山田小キッズ、南山田小はまっ子、中川小はまっ子、東山田小はまっ子)</li> <li>・情報交換会&amp;勉強会「キッズ事業の理解を深める！キッズ運営法人選定検討会までにおきたい人とお金の話」 6/23(木) 参加者：8人(はまっ子7人、キッズ1人)</li> <li>・情報交換会@折本小キッズ 「おやつ」 1/24(火) 参加者：15人(はまっ子11人、キッズ4人)</li> <li>・講習会「つくって遊ぼう！かんたん工作」 3/9(木) 参加者：5人(はまっ子2人、キッズ3人)</li> <li>・『つづき区放課後キッズクラブ通信』の発行 計4回 (9月：「NPO立ち上げ型キッズと法人公募型キッズの訪問レポート」、10月：テーマ「おやつ」、12月：テーマ「防犯・不審者対応」、3月：テーマ「活動プログラム企画のヒント」)</li> <li>・キッズクラブ現場見学受け入れ 2/16(木)・18(土)・24(金)・3/4(土)・10(金) 参加者：計15人</li> </ul> <p>※都筑区内NPO法人のほか、2校(保土ヶ谷区、戸塚区)の法人役員、はまっ子ふれあいスクール運営委員から放課後キッズクラブ転換に関する相談に対応した。</p>		
事業名	放課後キッズクラブの安定的な運営に向けた相談、助言 はまっ子キッズ交流事業		
日時/回数	1/12(木)・17(火)・18(水)・20(金)	場所	法人運営の放課後キッズクラブ
対象	はまっ子ふれあいスクールチーフパートナー	参加者	26人(はまっ子のみ)
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校放課後キッズクラブ転換という市の施策の推進を受け、中間支援的役割を担う。</li> <li>・放課後キッズクラブスタッフが閉塞的にならないために、日々の運営を客観的に振り返る機会にする。</li> <li>・将来的に、放課後キッズクラブの運営法人の枠を超えた関係づくりのきっかけにする。</li> </ul>		
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後キッズクラブの運営(利用児童の把握、おやつ、保護者負担金など)に関する情報交換</li> <li>・はまっ子ふれあいスクールと放課後キッズクラブの違い(副主任の雇用、スタッフ配置、スタッフの意識改革など)に関する情報交換 <ul style="list-style-type: none"> <li>1/12(木) 本町小キッズ 参加者：12人(はまっ子10人、キッズ2人)</li> <li>1/17(火) 上寺尾小キッズ 参加者：4人(はまっ子3人、キッズ1人)</li> <li>1/18(水) 上矢部小キッズ 参加者：9人(はまっ子7人、キッズ2人)</li> <li>1/20(金) 宮谷小キッズ 参加者：8人(はまっ子6人、キッズ2人)</li> </ul> </li> </ul> <p>※このほか都筑区放課後キッズクラブNPO法人設立支援等業務の一環として、「都筑区情報交換会」1/24(火)、3/9(木)参加者延べ20人(はまっ子13人、キッズ7人)を実施。</p>		

B:青少年を支える人材を育成する事業 い:講座、セミナー、育成

事業名	放課後3事業スタッフ人材育成研修 放課後事業"スタッフ力"アップ研修『「キケン」の芽の摘みとり方』		
日時/回数	1/27(金)、2/23(木) 10時~12時	場所	横浜市青少年育成センター
対象	放課後事業に従事するスタッフ	参加者	40人(延べ)
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後事業に共通する研修テーマを通じ、放課後キッズクラブとはまっ子ふれあいスクールなど異なる事業所の職員交流の場を設ける。</li> <li>・危険予知について考え、安心で安全な放課後の運営につなげる。</li> </ul>		
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちの活動に潜む危険についての解説</li> <li>・危険予知とその対策を考えるワーク</li> <li>・安心で安全な活動をするためのチェックポイント</li> <li>・情報交換(現場での安全管理など) ※内容は2回とも同じ <ul style="list-style-type: none"> <li>1/27(金) 参加者：22人(はまっ子2人、キッズ4人、児童クラブ16人、計16事業所)</li> <li>2/23(木) 参加者：18人(はまっ子2人、キッズ6人、児童クラブ10人、計12事業所)</li> </ul> </li> </ul>		

C:青少年に体験機会や活動の場を提供する事業 う:体験活動等

事業名	放課後キッズクラブ運営		
日時/回数	通年	場所	横浜市立小学校内 17区26か所
対象	小学生	参加者	423,171人(26か所延べ)
事業目的	・通い慣れている小学校の施設を活用して、すべての子どもたちにとって安全で快適な「放課後の居場所」を提供する。		
実施内容	<p><b>【放課後キッズクラブ運営】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・在籍児童数の51.2%(26か所の平均値)が登録しました。</li> </ul> <p>①プログラム実績 月平均約15.8回、総計4,919回、延べ113,137人が参加しました。</p> <p>②評議会、保護者会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評議会 26か所、計52回</li> <li>・保護者会 26か所、計53回</li> </ul> <p>③主任会議、副主任会議の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主任会議 4/4(月)、6/3(金)、7/5(火)、10/4(火)、11/4(金)、12/2(金)、1/5(木)、3/2(木)、3/24(金)</li> <li>・副主任会議 5/27(金)、6/15(水)、8/4(木)、10/20(木)、12/16(金)</li> <li>・合同会議 5/6(金)、9/2(金)、2/3(金)</li> </ul> <p>④近隣の放課後事業所等との情報交換・交流プログラムの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報交換会 <ul style="list-style-type: none"> <li>秋葉小キッズ・東品濃小はまっ子 7/14(木)</li> <li>和泉小キッズ・中和田小はまっ子 9/15(木)</li> <li>本町小キッズ・中川小はまっ子 2/16(木)</li> <li>秋葉小キッズ・中川小はまっ子 2/18(土)</li> <li>日吉南小キッズ・東山田小はまっ子 2/24(金)</li> <li>日吉南小キッズ・東山田小はまっ子 2/27(月)</li> <li>長津田小キッズ・南山田小はまっ子 3/4(土)</li> </ul> </li> <li>・交流プログラム <ul style="list-style-type: none"> <li>港南台第三小キッズ(港南台放課後クラブ連絡会) 8/26(金)</li> <li>折本小キッズ・茅ヶ崎東キッズ 8/2(火)</li> <li>秋葉小キッズ・川上小キッズ 8/8(月)、23(火)</li> <li>上矢部小キッズ・鳥が丘小キッズ・YMCA山手台学童クラブ 8/4(木)</li> <li>南瀬谷小キッズ・阿久和小キッズ 1/21(土)</li> <li>秋葉小キッズ・寺尾小キッズ・本町小キッズ・上矢部小キッズ・六つ川小キッズ 2/25(土)</li> </ul> </li> </ul> <p><b>【人材育成(スタッフ研修)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・常勤職員研修 5/6(金)、9/2(金)</li> <li>・主任研修 6/3(金)、10/4(火)、11/4(金)</li> <li>・副主任研修 5/27(金)、6/15(水)、8/4(木)、12/16(金)</li> <li>・非常勤職員研修 1/27(金)、2/15(水)、23(木)</li> </ul> <p><b>【高校生インターンシップ受け入れ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・能見台小キッズ 2人</li> <li>・寺尾小キッズ 3人</li> <li>・瀬ヶ崎小キッズ 1人</li> </ul>		

【各放課後キッズクラブの状況】 (区名50音順)

区名	学校名 (小学校)	在籍 人数(人)	登録 人数(人)	延べ参加 児童数(人)	プログラム 数(件)	プログラム 参加人数(人)	主なプログラム
青葉区	すすき野	203	82	5,571	237	3,128	コマ・けん玉/キッズ菜園/ブラバン/ハンドベル/工作/囲碁将棋/探検ゲーム/手芸/料理/横浜FCと遊ぼう/卓球 など
泉区	和泉	358	164	9,965	73	2,936	コマ・けん玉/ビーズアクセサリづくり/3B体操/ブラバン/百人一首/科学工作/ドッジボール/パドミントン/泉区子どもアドベンチャー/ミニバスケット体験 など
旭区	笹野台	598	362	18,119	311	6,000	スポーツチャンバラ/ソフトテニス教室/ハンドベル教室/あみもの教室/ミサンガ/こま回し大会/ブラバン/プラネタリウムに行こう/キッズ演芸大会 など
磯子区	岡村	375	213	13,088	186	3,963	ドッジボール同好会/クラフト/ボンボンマスコット/親子木工教室/星のクラフト/キッズまつり/お正月遊び/シャボン玉/手芸/料理 など
神奈川区	浦島	471	258	17,795	154	3,045	将棋オセロ/3B体操/スポーツ教室/けん玉検定/カブラ/映画上映会/ハンドベル/工作/水遊び/ハロウィン/アイススケートに行こう など
金沢区	瀬ヶ崎	394	200	10,090	100	1,529	ドッジボール/瀬ヶ崎探検隊/卓球/工作/親子でシフォン/ハロウィンお化け屋敷/将棋教室/紙芝居隊/フラワーアレンジメント など
	能見台	466	267	11,070	192	2,609	サッカー教室/カブラワークショップ/フラダンス/オセロ大会/キッズまつり/チャレンジデー/おえかきふりりん/おやこの食育/千丈公園で遊ぼう/DVD鑑賞会/昔遊び など
港南区	港南台第三	289	178	13,178	254	4,862	キッズパザール/ディスクミサンガ/野菜を植えよう/クワガタ研究会/工作/囲碁・将棋/キッズクラブ探検隊/光の実験教室/お花見ランチ/アイロンビーズ/ブラバン/工場見学 など
港北区	日吉南	819	404	23,026	122	4,322	ブラバン/ドッジボール/絵画教室/壁面装飾/地域交流カレンダーづくり/キッズ工房/シャボン玉/クリスマスイベント/大なわあそび など
栄区	飯島	599	311	16,317	373	5,011	ブラバン/粘土工作/アイロンビーズ/ドッジボール/バルーンアート/シャドーピクチャー/パドミントン教室 など
	桜井	338	225	13,382	144	3,637	ドッジボール/ブラバン/パドミントン/パステルアート/野島キャンプ/藍染め/壁面づくり/茶道教室/クリスマス会 など
瀬谷区	瀬谷さくら	415	158	7,461	143	2,871	コマまわし記録会/キッズシアター/アイロンビーズ/折り紙/紙飛行機記録会/ドッジボール/読み聞かせ/科学で遊ぼう/収穫体験/工作教室 など
	南瀬谷	814	307	16,046	163	7,254	藍染め/仮装パーティー/阿久和小キッズと交流/キッズルーム壁面づくり/段ボールハウスづくり/わくわく緑日/おはなしボンボン/ヨコハマ3R夢出前教室 など
都筑区	折本	768	363	24,008	215	3,728	ドッジボール/ハーブとフルーツの演奏会/将棋大会/ハロウィンウォーク/茶道体験/ANA工場見学/子ども会議/ヨット乗船会/天体観測 など
鶴見区	上寺尾	577	305	19,157	251	6,754	フラダンス/ビーズ教室/ドッジボールクラブ/アイロンビーズ/習字/オセロ大会/ブラバン など
	寺尾	676	364	18,173	203	5,608	ドッジボールクラブ/親子焼き芋体験/フラダンス教室/茶道/切り絵/ヨット乗船会/海苔づくり体験/親子DEキッチン/キッズ 屋台/キッズハロウィン など
戸塚区	秋葉	735	479	22,440	348	9,138	スポーツチャンバラ/パドミントン/ドッジボール/大縄跳び/ショップデー/アクティブ工作/キッズ緑日/お花見遠足/編み物/料理/フラダンス/いちご狩り/ミステリーツアー など
	上矢部	687	365	19,939	153	3,624	ドッジボール/アイロンビーズ/夏野菜の収穫体験/ブラバン/英語で遊ぼう/凧揚げ大会/横浜FCと遊ぼう/読み聞かせ/デジタル紙芝居 など
	名瀬	537	362	18,011	215	7,377	ドッジボール/パドミントン/サッカー/おやつ工房/キッズ映画館/風船バレー/キッズ工房/囲碁教室/ハロウィン/勾玉づくり/カブラ など
中区	本町	771	336	19,366	152	2,671	クワガタ研究会/ドッジボール/水合戦/じっくり工作/子どもアドベンチャー/キッズ交流会/海苔づくり体験/探検キッズ など
西区	宮谷	910	412	23,388	177	4,620	水墨画教室/生け花教室/野島でバーベキュー/音のある音楽会/3B体操/ドッジボール/マフラー編み/スカッドボーイ など
緑区	十日市場	662	302	22,949	70	2,057	工作教室/グラウンドゴルフ/ぬり絵/中学生とサッカーで遊ぼう/工作/スライムづくり/迷路の日/ペーパークラフト など
	長津田	762	366	18,801	221	6,649	野球教室/ドッジボール/紙芝居/生け花教室/ミサンガ教室/親子制作/絵本ライブ/創作クラブ/キッズシアター/伝統遊び/カレンダー制作 など
南区	太田	269	175	11,770	167	3,299	風船バレー/パドミントン/ドッジボール/手芸・工作教室/人形劇プロジェクト/いちご狩り/アイロンビーズ/おやつ工房/リリアン/ブラバン/ボードゲーム/芋煮会 など
	永田	549	278	16,915	150	3,981	グランドゴルフ/ミニバスケット教室/折り紙教室/工作/マジックショー/ビンゴ大会/3B体操/読み聞かせ/国旗制作/スイーツ工房/DVD鑑賞会/陶芸教室/野球教室/サッカー教室 など
	南	494	213	13,146	145	2,464	読み聞かせ/囲碁教室/クラフト/ドッジボール/ゲーム大会/カードづくり/キッズツリーづくり/カレンダーづくり/体を使って遊ぼう など
26か所計		14,536	7,449	423,171	4,919	113,137	

【平成 28 年度 放課後キッズクラブ運営法人再選定の結果(平成 19 年度開設 1 か所)】

区	キッズクラブ名	再選定検討会	再選定決定通知
神奈川区	浦島小学校放課後キッズクラブ	9/1(木)	9/21(水)

事業名	放課後キッズクラブの拡充	
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての子どもたちに放課後の安心・安全な「遊びの場」を提供する。</li> <li>・増加する留守家庭児童のうち、必要とする児童に19時までの「生活の場」を提供する。</li> <li>・外郭団体として、市の施策推進の一助を担う。</li> </ul>	
実施内容	・平成28年度新規開設(平成29年3月)の放課後キッズクラブ5か所の現場見学会に参加した。勘案の結果、うち1か所の運営法人に応募したが、選定されなかった。	【応募した放課後キッズクラブ】 霧が丘義務教育学校放課後キッズクラブ(緑区)

A:青少年活動を支援する事業 え:相談、助言

事業名	地域活動支援事業		
日時/回数	通年	場 所	岡村中学校区、神大寺地区センター、十日市場中学校区 他
対 象	青少年団体、青少年育成団体		
事業目的	・地域の団体による青少年育成活動および青少年活動に対する支援を通して、青少年と大人がともに育つ環境を醸成する。		
実施内容	①磯子区「子どもの幸せを実現する会」 → 事業補助金の交付、活動相談、運営補助(役員会等)、自立運営に向けたコンサルティング ②神奈川区神大寺地区「GROVE運営委員会」 → 事業補助金の交付、運営委員会への参加、次年度以降の活動相談 ③十日市場中学校地域交流事業 → 地域交流会、実行委員会への参加、夏ボラ事業の視察 ④活動相談 → 年56件(青少年育成活動25件、居場所づくり18件、研修プランニング13件) プランニング(助言) ・瀬谷区、青葉区の青少年の地域活動拠点立ち上げに向けた相談や青少年支援部会への参加 ・西区地域福祉保健計画「にこまち」の児童部会の助言(青少年の居場所づくりや青少年に関わる大人の研修会ほか) ・生活科、総合的な学習教育研究協議会の研修会コーディネート(研修会場や研修内容の相談助言) ・「豊かな体験フォーラム」(主催:横浜すばいす)開催に向けた相談や助言、広報支援 <b>【協働、連携】</b> ①岡村中学校、磯子区地域振興課、磯子警察署 ②神奈川区地域振興課、神大寺地区センター、中丸小学校 ③十日市場中学校 他		

事業名	青少年を対象とした企業等の社会貢献活動支援事業		
日時/回数	通年	場 所	主に横浜市内
対 象	市民、企業、地域団体 等	件 数	4件
事業目的	・企業や団体の社会貢献活動を支援し、地域の青少年活動を推進する。		
実施内容	①社会貢献活動の支援・推進 ・ブックオフCP(株):課題を抱える青少年を支援する寄付金制度「よこはま子ども寄り添いブック寄付金」の立ち上げ ・アクセンチュア(株):地域・学校と連携した教育プログラムの開発(飯島小プログラミング事業)への助言、協力 ・横浜市立大学教員地域貢献活動のプランニング ・横浜南央ロータリークラブ地域貢献活動の実施 ②社会貢献プログラムの検討・開発・ニーズ把握 ・新たな資金調達方法(クラウドファンディング)の調査、ヤフー(株)のチャリティーオークション制度の調査 <b>【協働、連携】</b> 横浜市政策局、ブックオフオンライン(株)、コミュニティーデザイン・ラボ		

事業名	知っておきたい!子ども・若者どこでも講座		
日時/回数	通年	場 所	横浜市内
対 象	青少年指導員・民児協・PTAなど地域で青少年育成に取り組む団体	件 数	55件
事業目的	・青少年を取り巻く現状や課題の啓発を通して、地域全体で青少年を見守る意識を育む。		
実施内容	・地域の団体や学校、PTA等が主催する青少年課題をテーマとした研修や講座へ講師を派遣した。 ・講師の選定・連絡調整を行うとともに、実施に係る講師謝金・交通費も負担。 <b>【主なテーマ】</b> 「子どもとの関わり方」「インターネット・携帯電話」「非行」「性教育・性」「薬物」「若者の自立支援」「心の問題」等 <b>【事前準備】</b> 講師との連絡調整・依頼手続き、打ち合わせへの同行等実施の準備 <b>【当日】</b> 実施の立ち合い・記録 <b>【事後】</b> 講師への謝金支払、アンケート集計 <b>【協働、連携】</b> 学識経験者や活動実践者、医療関係者および関係機関に講師を依頼		

A:青少年活動を支援する事業 お:調査、資料収集

事業名	調査・研究事業		
日時/回数	通年		
対 象	青少年および青少年育成活動全般		
事業目的	・青少年および青少年育成に関する調査・研究を通して、青少年のニーズと社会的課題に対応した新たな事業展開を目指す。 ・成果の蓄積と発信により、青少年育成分野における法人の価値を高める。		
実施内容	青少年のニーズと社会的課題に応じた新たな事業展開に向けて、大学や研究機関との協力により事業の成果検証や事業評価システムの検証・改善、青少年に関する調査研究等を実施した。 ①寄り添い型学習等支援事業等の成果検証 → 運営等を考える連絡会に参加したが成果検証までは行っていない ②困難を抱える青少年を支援する事業の検討と開発 → 居場所研究会(市大連携)の開催 7/15(金)、8/5(金) 2/22(水)全3回 ③事業評価システム検証・改善 → 未実施 ④調査研究事業の成果をまとめた報告書「YOKOHAMA EYE`S」の発行 ・中高生の居場所の意識調査 → 横浜市立の中高生2643人にアンケート調査、分析、報告 ・「YOKOHAMA EYE`S」の発行 → テーマ:地域や学校で生まれる新たな青少年の「居場所」 1,200部 <b>【協働、連携】</b> 横浜市立大学、横浜すばいす		

B:青少年を支える人材を育成する事業 い:講座、セミナー、育成

事業名	人材育成事業		
日時/回数	通年	場所	主に横浜市内
対象	青少年育成に関わる大人、小中高校生の保護者などの市民	件数	講師派遣:28件 エンパワメントセミナー:198人
事業目的	・地域における青少年育成活動の充実と発展のため、研修機会を提供する。 ・青少年を取り巻く現状や身近な課題について啓発し、青少年への理解を深め、地域の大人が青少年を見守る“目”を育む。		
実施内容	講師派遣や講演会を通じ、青少年の支援に関わる人材の育成に取り組んだ。 ①講師(職員)派遣:28件(市内19件、市外9件) ②エンパワメントセミナー(啓発講座) 実施日:7/14(木) 対象:市民 テーマ:「自尊感情を育む共有体験」、参加者:198人 【掲載依頼】広報よこはま 等 10件 【チラシ配布】公共施設(地区センター、図書館等)、市立小中高校、キッズクラブ・はまっ子ふれあいスクール 青少年関係団体(市P連、市子連、民児協、青指)、市内の大学学生課 600件		

C:青少年に体験機会や活動の場を提供する事業 う:体験活動等

事業名	団体との連携事業		
日時/回数	通年	場所	横浜市内、山梨県道志村水源林 他
対象	小学生～高校生		
事業目的	・地域の青少年育成団体や関係機関等と協力し、自然環境や社会資源を活用した青少年の体験活動の機会を広げる。 ・ボランティアなど体験活動を通じて、青少年の社会性や自主性を育む。		
実施内容	①市民団体と協働した体験プログラムの実施 ・横浜開港祭ワークショップ(少年5団体協働) 実施日:6/1～2 参加者延べ830人 ②高校生水源林保全ボランティア 実施日:8/23 参加者71人 ③高校生の社会体験プログラムの開発 ・三陸漁業組合と高校生就労カフェプログラム(H29年5月実施予定) ・地域活動拠点社会体験プログラム(H29年8月実施予定) ④自然・社会体験活動の推進→少年五団体と連携して自然・社会体験促進チラシの作成と配布 【協働、連携】 ①④横浜市少年五団体(ボーイスカウト横浜市連合会、ガールスカウト横浜市連絡協議会、横浜市健民少年団、横浜市海洋少年団、横浜市子ども会連絡協議会) ②横浜市水道局 ③横浜南央ロータリークラブ、横浜総合高校、青少年の地域活動拠点		

事業名	教育機関との連携事業 サイエンスプログラム		
日時/回数	通年	場所	市立高校、野島青少年研修センター 他
対象	小学生～高校生		
事業目的	・市立高校など横浜市内の教育機関と連携し、青少年に自然・社会体験の機会を提供する。 ・様々な体験を通じ、青少年の身近な自然環境や社会に対する興味関心を高める。 ・高校生がこれまでの学習を活かした社会貢献活動や相談を通じて、社会に参加するきっかけをつくる。		
実施内容	①横浜市立サイエンスフロンティア高校 a.野島海岸生き物観察 6/5(日)、参加者36人 b.天文教室 1/22(日)、参加者23人 c.化石教室 2/26(日)、参加者34人 d.プログラミングロボット教室3/12(日)、参加者17人 ②横浜市立みなと総合高校 みなとプラネ 2/4(土)、参加者26人 【協働、連携】 ①サイエンスフロンティア高校(理科調査研究部、天文部、情報工学部) ②みなと総合高校(地球科学部)		

事業名	教育機関との連携事業 横浜総合高校キャリア支援事業 交流相談カフェ		
日時/回数	通年(準備:6～9月、実施:10月～3月)	場所	市立横浜総合高校 フリースペース、図書館
対象	横浜総合高校に通う生徒		
事業目的	・中退や進路未定等のリスクを抱える高校生を対象としたキャリア支援の機会を提供する。		
実施内容	横浜総合高校に通う高校生が、様々な人との出会いや社会資源とつながりを通して、将来的な自立に向けた力を蓄えるためのキャリア支援として、高校内に交流相談カフェを設置し、気軽に立ち寄れる相談の場を提供した。 ①カフェの立ち上げと運営のコーディネート ・実施先の高校との打ち合わせ:9回、NPOや大学などの連携機関との打ち合わせ12回、先行事例の視察:3回 ・カフェPR:a生徒向けワークショップ:2回、b全校集会での周知:4回、cメディア取材:1回、d報告会:7回 ・コーディネート(視察、地域連携等):12回(弘明寺商店会、南央ロータリークラブ、地区社協、南区役所ほか) ②カフェの運営 10/5(水)～3/1(水) 全15回 参加者数2,959人 1回平均約200人 【協働、連携】 横浜市立横浜総合高校、NPO 法人多文化共生教育ネットワークかながわ NPO 法人よこはまメンタルサービスネットワーク、横浜市立大学		

事業名	道志村と連携した社会体験・交流プログラムの実施		
日時/回数		場 所	見学：横浜市内 宿泊：横浜市野島青少年研修センター
対 象	道志村立道志小学校5年生と引率教員、教育委員会	参加者	16人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜市の小学生と道志村の小学生の交流を深める。</li> <li>・横浜での社会見学の機会を提供し、道志小児童に横浜への理解を深める。</li> </ul>		
実施内容	<p>道志村児童を横浜に招待し、市内の小学生との交流、横浜市を中心とした社会見学の機会を提供することで、横浜市と道志村の交流と相互理解を深めた。</p> <p><b>【事前】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道志小学校、万騎が原小学校と打ち合わせ、活動内容調整</li> <li>・企画立案、関係先への手続き</li> <li>・浄水場、工場等活動先との打ち合わせ</li> </ul> <p><b>【当日】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加人数16人(児童10人、引率教員等6人)</li> <li>・児童の誘導、引率、引率教員との調整</li> <li>・活動プログラム                     <ul style="list-style-type: none"> <li>川井浄水場見学</li> <li>万騎が原小学校児童との交流会</li> <li>横浜港見学(大棧橋、遊覧船乗船)</li> <li>中華街、マリントワー見学</li> <li>産業工場見学(日産追浜工場見学)</li> <li>横浜市の水源地 道志情報館 水カフェどうし(洪福寺松原商店街)見学</li> </ul> </li> </ul> <p>※宿泊は野島青少年研修センターを利用</p> <p><b>【協働、連携】</b> 横浜市立万騎が原小学校、道志村立道志小学校、道志村、道志村教育委員会、こども青少年局青少年育成課</p>		

A:青少年活動を支援する事業 あ:施設の貸与

事業名	活動支援事業		
日時/回数	通年	場所	青少年交流・活動支援スペース
対象	青少年およびスペース利用者	利用数	59,336人
事業目的	・青少年が学校や地域、世代を越えた人々と出会い、交わり、つながる、きっかけとなる居場所づくりに取り組む。 ・青少年が集まり、自主的に活動する場を提供する。		
実施内容	①フリースペースの運営 交流・読書・学習の各スペースの運営、ロビーワークの実施、フリースペースステージ提供「オテナミLIVE」の実施 ※フリースペース利用者:青少年8,831人(1日平均:26人)、以外2,408人(1日平均:6人) 合計11,239人(1日平均:32人)  ②諸室の貸出 音楽スタジオ、研修室、多目的ルームなど設備の貸出、音楽プレーヤーや映像機器など機材・備品の貸出 ※1、利用者数:48,097人(青少年22,341人、青少年以外25,756人) ※2、稼働率:60.8%(青少年28.2%、指導者10.9%、一般19.0%、法人関係2.7%)		

事業名	利用促進事業		
日時/回数	通年	場所	青少年交流・活動支援スペース
対象	青少年および市民		
事業目的	・より多くの青少年に利用してもらうために、多様なツールを活用した「青少年に届く広報」に取り組む。 ・青少年の視点を取り入れた新たな広報活動と利用促進に取組み、認知度の向上を目指す。		
実施内容	①インターネットやチラシ等による広報活動 ・空き情報の配信(5の付く日)、ツイッターによるイベントなどの情報発信 ・リーフレットやポケットティッシュの街頭配布 ・周辺学校への訪問・PR(3中学校、3高校) ・西区中区の青少年指導員や校長会等に事業報告、PR(8か所)  ②利用促進キャンペーンの展開 ・ゴールデンウィーク利用促進キャンペーン ・愛称募集と決定(6/10 愛称:さくらリビング) ・多目的ルームの夏休み半額キャンペーンの実施		

A:青少年活動を支援する事業 え:相談、助言

事業名	相談支援事業		
日時/回数	通年	場所	青少年交流・活動支援スペース
対象	青少年および保護者	件数	129件
事業目的	・青少年に日常的な相談/助言、傾聴を行い、信頼関係を築くとともに青少年の成長と自立を支援する。 ・青少年のニーズ(潜在的な課題や欲求)を把握して、必要な活動や支援に結び付ける。 ・青少年を取り巻く現状や身近な課題を知り、必要な知識を学ぶことで、青少年が課題や困難に直面するリスクを減らしていく。		
実施内容	①日常的な相談支援:ロビーや受付での日常的な会話(傾聴)を通じた相談・傾聴件数:497件 ②個別相談:相談件数:129件 ボランティアや成果発表など活動相談のほか、家庭や学校生活でのトラブルや人間関係、アルバイト、大学受験などの相談が多かった。直接就労支援につなぐ対応も行った。 ③啓発事業 ・2/6(月)~19(日) エイズの世界(パネル展) 参加者:85人 ・3/18(土)、25(土) ライフプラン講座(お金編) 参加者:48人 ・3/31(金) SNS講座 参加者:18人		

B:青少年を支える人材を育成する事業 い:講座、セミナー、育成

事業名	青少年サポーター育成事業		
日時/回数	通年	場所	青少年交流・活動支援スペース 他
対象	大学生以上	件数	10人
事業目的	・青少年がより「相談しやすい」環境を作るため、スタッフと青少年とをつなぐ、大学生以上の支援ボランティアを育成する。 ・周辺地域の人材を活用することで、スペースの存在意義や取り組みの理解を地域に広めていく。		
実施内容	①青少年サポーター事業 フリースペース利用者や事業に参加した大学生や社会人の青年を中心にボランティア登録を開始し、平成29年度の本格稼働に向けて準備を行った。 ②シニアボランティア育成事業 学習支援ボランティアを中心に活動:活動71回、延べ活動者数284人 他ボランティア交流会の実施(年2回)、月1回の定例ミーティングを実施  【協働、連携】野毛町内会 他		



C:青少年に体験機会や活動の場を提供する事業 う:体験活動等

事業名	青少年の交流・体験事業		
日時/回数	通年/45回	場 所	青少年交流・活動支援スペース
対 象	青少年～30歳、地域や諸室利用の大人	利用数	235人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な交流プログラムを通して、青少年の出会いと仲間づくりを支援する。</li> <li>・世代や地域を越えた多様な人との出会いや交流を通して、ともに活動しながら学び合う機会をつくる。</li> <li>・地域の大人が青少年と知り合う機会をつくることで、青少年を見守る大人の「輪」を広げる。</li> </ul>		
実施内容	<p>①交流促進事業(年19回)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英会話カフェ:17回 95人</li> <li>・パンケーキカフェ:2回 16人</li> </ul> <p>②青少年チャレンジ事業(年15回)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生からのヨガ:8回 38人</li> <li>・ドラマ相談会:6回 21人</li> <li>・ダンス教室:1回 3人</li> </ul> <p>③青少年ボランティア事業(年11回)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マジックボランティア:4回 15人(台風で1回中止)</li> <li>・地域清掃ボランティア活動:7回 47人</li> </ul> <p>【協働、連携】</p> <p>諸室利用者・団体、ぴおシティー商店会、野毛地区商店会、体育協会 他</p>		
事業名	社会参加プログラム		
日時/回数	通年	場 所	横浜地方裁判所、青少年交流・活動支援スペース
対 象	中高生～社会人	件 数	214人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会体験を通して、青少年が社会や仕事について知り、将来を考えるきっかけとなる体験を提供する。</li> <li>・若者世代が趣味や活動、学びの場を通して、ともに社会について考える若者コミュニティーを作る。</li> </ul>		
実施内容	<p>①社会体験・就労体験事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハマのコート(裁判所見学) 8/12(金) 参加者:11人</li> <li>・日銀見学 12/28(水)参加者:15人</li> <li>・社会教育実習の受入 駒澤大学(14日間):3人</li> <li>・中学生職場体験の受入 横浜市立老中学校(5日間):4人</li> </ul> <p>②若者コミュニティー事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カルチャークラブ(プラモ、ボードゲーム) 15回 75人</li> <li>・スポーツクラブ(ジョギング、卓球) 20回 50人</li> <li>・中高生の井戸端会議 7回 49人</li> </ul> <p>③青少年委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・説明会12/18(日):委員登録数7人</li> <li>・定例会12月～毎月第三木曜日実施(4回)</li> <li>・施設見学(世田谷区)1/29(日)</li> </ul> <p>【協働、連携】</p> <p>ぴおシティー商店会、野毛地区まちづくり会</p>		
事業名	困難を抱える青少年の活動支援事業		
日時/回数	通年	場 所	青少年交流・活動支援スペース
対 象	困難を抱える中高生	参加者	299人
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校やひきこもり、貧困など困難を抱える青少年が、地域の大人や他の青少年と出会い、関わる機会をつくる。</li> <li>・「居場所」でのつながりを通して、潜在的な課題やリスクを抱える青少年を支援に繋ぐ。</li> <li>・地域の大人や団体、企業とのつながりを活かして、貧困状態にある青少年の支援の充実を図る。</li> </ul>		
実施内容	<p>①さくらリビング勉強会:全47回 参加者244人 毎週火曜日16時～19時 学習支援、創作活動(工作等)、美術館見学など</p> <p>②【中退・不登校向けの昼間の学習会】 8/19(金)～8/28(月)の10日間、夏期集中勉強会を実施:中高生 延べ33人</p>		

A:青少年活動を支援する事業 あ:施設の貸与

事業名	諸室及び物品の貸出																														
日時/回数	通年	場 所	横浜市青少年育成センター																												
対 象	施設利用者、市民、青少年活動団体	利用数	5,033コマ																												
事業目的	・ 研修室や機材、印刷機、着ぐるみなどの貸出を行うことで、地域の青少年活動を支援します。また、webを活用した情報提供やロッカーの設置などのサービス向上に努め、利用促進に取り組む。																														
実施内容	<p>①諸室及び物品の貸出</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修室などの管理運営や活動に必要な備品、機材の貸出を通年で実施し、利用者の声を取り入れて随時充実させている。</li> <li>・ プリントルームの運営及び館外物品(きぐるみ)の貸出を通年で実施。</li> <li>・ 日常の簡易な点検・清掃・修繕を通年でを行い、快適な施設管理に向けた取り組みを実施した。</li> <li>・ 施設稼働率向上を目指し、5月に近隣区施設に利用促進チラシ送付するとともに、HP上での活動紹介等の広報を随時実施した。</li> </ul> <p>②利用者サービスの向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用報告書、受付で利用者ヒアリングを実施(通年)。また、利用者アンケートを11月～12月で実施(150団体に配布、136件回収)。</li> <li>・ 利用者サービス向上を図り、Co.会議を毎月1回実施。また、AED講習(7月)、相談対応研修(8月、2月)等の研修を実施した。</li> <li>・ 利用者向けロッカーの設置を6月から、コーヒーポット貸出サービスを7月から実施した。</li> <li>・ 馬車道通信の発行(毎月)や、スタジオ空室情報提供(週1回)、施設空き情報提供(月1回)などの情報提供を実施。</li> </ul> <p>③防災・防犯(訓練等の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 避難訓練の実施(6月)、及び防災訓練の実施(2月)</li> </ul> <p>【過去3年間の利用実績】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>登録者数</th> <th>利用人数</th> <th>利用件数</th> <th>稼働率</th> <th>印刷室</th> <th>着ぐるみ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28年度</td> <td>401件</td> <td>59,449人</td> <td>5,033件</td> <td>74.3%</td> <td>730件</td> <td>27件</td> </tr> <tr> <td>27年度</td> <td>348件</td> <td>64,686人</td> <td>5,143件</td> <td>75.7%</td> <td>637件</td> <td>27件</td> </tr> <tr> <td>26年度</td> <td>428件</td> <td>63,054人</td> <td>5,020件</td> <td>74.1%</td> <td>572件</td> <td>36件</td> </tr> </tbody> </table>			年度	登録者数	利用人数	利用件数	稼働率	印刷室	着ぐるみ	28年度	401件	59,449人	5,033件	74.3%	730件	27件	27年度	348件	64,686人	5,143件	75.7%	637件	27件	26年度	428件	63,054人	5,020件	74.1%	572件	36件
年度	登録者数	利用人数	利用件数	稼働率	印刷室	着ぐるみ																									
28年度	401件	59,449人	5,033件	74.3%	730件	27件																									
27年度	348件	64,686人	5,143件	75.7%	637件	27件																									
26年度	428件	63,054人	5,020件	74.1%	572件	36件																									

A:青少年活動を支援する事業 え:相談、助言

事業名	相談・コーディネート		
日時/回数	通年	場 所	横浜市青少年育成センター
対 象	青少年活動者・育成者または青少年、保護者等	利用数	51件
事業目的	・ 青少年育成や、ボランティア・市民活動等にかかる相談窓口として、「解決に向かってともに考える」姿勢を基本に、活動コーディネートや情報収集、スタッフ研修に取り組む。		
実施内容	<p>①相談窓口の開設【通年】(窓口・メール・FAX等により、一次窓口として青少年育成に関する相談を受け付ける)</p> <p>②青少年育成や市民活動等にかかるコーディネート【通年】(窓口・メール・FAX、他事業所等からの依頼により受付) ※今年度はシニア層の活動コーディネートに重点を置き、青少年交流・活動支援スペースと連携し、活動コーディネートを行った。</p> <p>③相談スタッフの養成研修【8月、2月】(相談対応力の向上を目指し、全スタッフが受講)</p> <p>【協働、連携】 青少年交流・活動支援スペース、事業係</p>		
事業名	情報提供(情報コーナーの運営)		
日時/回数	通年	場 所	横浜市青少年育成センター
対 象	青少年活動者・育成者または青少年、保護者等		
事業目的	・ 青少年育成にかかる研修や活動情報、図書などが閲覧・収集できる「情報コーナー」を運営するとともに青少年関係情報を発信します。また収集した情報を、事業係と連携し調査・研究等に活用する。		
実施内容	<p>①情報コーナーの運営【通年】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ HP、新聞、書籍等による青少年活動の情報収集と整理を行い、分野別のファイリングなど、施設を活用した情報提供と相談対応環境の整備を行った。今年度は、11月に行ったアンケート結果をもとに、新たにB2の情報コーナーの配置を整備した。</li> </ul> <p>②情報収集・情報発信および調査研究【通年】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ボランティア活動情報や施策動向、統計など青少年に関する情報を収集し、HPとEメールで発信した。</li> </ul> <p>【協働、連携】 事業係</p>		

B:青少年を支える人材を育成する事業 い:講座、セミナー、育成

事業名	課題解決に結び付けることができる人材の育成と支援 ユースコーディネーター養成研修		
日時/回数	11/9(水)、18(金)、25(金)、12/1(木)	場所	横浜市青少年育成センター
対象	青少年育成活動を行っている人	参加者	95人(延べ)
事業目的	・青少年を取り巻く課題を正しく理解し、青少年に寄り添うことができるほか、必要に応じて専門機関や社会資源とつなぐ人材を養成する。		
実施内容	青少年を取り巻く課題を正しく理解し、青少年に寄り添うことができるほか、必要に応じて専門機関や社会資源とつなぐ人材(ユースコーディネーター)を養成した。 ※年4回(連続講座) 参加費:2,000円(4回) 部分参加各回700円 各回定員30人 ①11/9(水)「子どもたちの取り巻くリスクを知り、支援機関へつなぐ」 ②11/18(金)「ひきこもり・不登校などの青少年の理解と支援」 ③11/25(金)「子どものサインを見逃さないために～リスクの早期発見～」 ④12/1(木)困難を抱える子ども・若者の支援の現場から学ぶ 時間:①②③ 9時30分～12時 ④10時～12時30分 【協働、連携】 ①【講師】横浜市中央児童相談所 虐待対応・地域連携課担当係長 竹内 敬一郎 ②【講師】横浜市青少年相談センター 相談支援担当係長 畑井田 泰司 ③【講師】県警察本部少年相談・保護センター所長 西谷 晴美 ④【講師】NPO法人さいたまユースサポートネット 代表理事 青砥 恭		
事業名	課題解決に結び付けることができる人材の育成と支援 ユースコーディネーター認定制度に向けた取組		
日時/回数	2月～3月	場所	横浜市青少年育成センター
事業目的	ユースコーディネーター養成講座修了生を対象にした認定制度を確立し、地域での活動充実のための環境を整える。		
実施内容	平成29年度の認定制度に向けた準備を行った。 ・認定制度のあり方調査(3ヶ所) ①2/9(木):一般社団法人 教育支援人材認証協会「こどもパートナー」 ②3/11(土)～12日(日):京都ユースサービス協会「ユースワーカー」 ③3/15(水):日本ボランティアコーディネーター協会「ボランティアコーディネーター」		
事業名	人材のすそ野を広げるための講座・研修 青少年の居場所づくり講座(連続講座)		
日時/回数	8/9(木)～9/6(火) / 4回	場所	横浜市青少年育成センター
対象	青少年と関わりがある施設・活動等のスタッフ	参加者	91人
事業目的	・地域で青少年に関わる人材を増やすため、主に初任者を対象とした研修を実施する。地域等において青少年の「居場所」のあり方について実践からヒントを得る連続講座を実施する。		
実施内容	各テーマの視点から話を聞き、参加者が“自分自身の関わり方”を見つける機会を提供した。(4回連続講座)。 ①【8/4(木)】(参加者数17人/申込者数23人)講師:萩原建次郎(駒澤大学 教授) 居場所の必要性や可能性などを考えるとともに、「居場所のあり方」「関わりのポイント」を講義とワークから学んだ。また、第2回以降の重要な点を伝えるガイダンス要素を含む形とした。 ②【8/25(木)】(参加者数16人/申込者数21人)実践者:鯛ヶ崎プレイパークスタッフ 「青少年の居場所づくり」を行う市内の先駆的事例である「鯛ヶ崎公園プレイパーク」の見学と青少年との関わり方のポイントについて学んだ。 ③【8/30(火)】(参加者数34人/申込者数44人)実践者:気まぐれ八百屋だんだん“こども食堂”近藤博子 「青少年の居場所づくり」を行う市外の先駆的事例である「気まぐれ八百屋だんだん こども食堂(大田区)」の話聞いた。 ④【9/6(火)】(参加者数24人/申込者数30人)講師:斉藤啓子(武蔵野美術大学 教授) 関わり方のポイントについて、空間デザインの視点から講義とワークを通して学んだ。第2・3回で「人」「もの」「場所」の3つについてどのようなところに魅了を感じたかを振り返りながら、居場所に必要な空間的要素を学んだ。 【参加費】2,000円、各回参加700円		
事業名	人材のすそ野を広げるための講座・研修 スキルアップ研修「広報・記録のためのデジカメ写真入門講座」		
日時/回数	6/10(金)	場所	横浜市青少年育成センター
対象	青少年育成者、青少年活動に関心がある人	参加者	28人
事業目的	・青少年育成活動に役立つ知識やスキルを学ぶ機会を提供することで青少年に関わる人材を拡充する。		
実施内容	・デジタルカメラの特性と、広報や記録における効果的な写真の撮り方についてフィールドワークを交えた実践的な講座を実施した。 ①写真の持つ意味と重要性 ②デジタルカメラの特徴 ③撮影のコツ・アングル 【参加費】2,000円 【講師】大向 哲夫(写真家)		

事業名	人材のすそ野を広げるための講座・研修 スキルアップ研修 「発達障がいの子ども・青少年の理解と支援講座」		
日時/回数	A:7/7(木) B:7/12(火) / 2回	場 所	横浜市青少年育成センター
対 象	青少年育成者、青少年活動に関心がある人	参加者	134人 (A:66人 B:68人)
事業目的	・青少年育成活動に役立つ知識やスキルを学ぶ機会を提供することで青少年に関わる人材を拡充する。		
実施内容	<p>発達障がいのある子ども・青少年に寄り添い、支えるために、数々の事例に接してきた専門家から、発達障がいの捉え方・特徴・支援のコツなどを学んだ。</p> <p>①神経発達障がい群 ②自閉症スペクトラム症などの特徴 ③発達障がいから生じる二次障がい ④性別違和 ⑤本人たちの声 ⑥支援にあたって</p> <p>※前年度定員を大幅に上回る応募があったため、定員30人を50人に増やすとともに、同じ内容の講座を2回実施した。</p> <p>【参加費】1,000円</p> <p>【講師】中本 テリー(臨床心理学博士)</p>		
事業名	人材のすそ野を広げるための講座・研修 スキルアップ研修 「やる気を引き出す！コーチング入門講座」		
日時/回数	10/19(水)、26(水) / 2回	場 所	横浜市青少年育成センター
対 象	青少年育成活動に関わる人	参加者	94人
事業目的	<p>・青少年に対する支援・育成活動に携わる人がより充実した活動を実施できるよう、コミュニケーションスキルのひとつである「コーチング」の基礎を身につけ、指導スキルの充実を図る。</p> <p>・豊かな人間関係の構築方法としての「コーチング」を学ぶことで、青少年育成活動に対する関心を高め、講座参加者の活動参画を目指す。</p>		
実施内容	<p>対人コミュニケーションの手法である「コーチング」の技術を、座学・実践を通して学ぶ講座を実施した。</p> <p>【実施内容】</p> <p>①座学：コーチング技術の基礎理論、コーチングの実施例紹介、コーチング模範シミュレーション ②実践：ロールプレイによる参加者同士のコーチング、対象者を選定しての実践、実践結果の検証</p> <p>【参加費】3,000円</p> <p>【講師】川本 正秀(共育コーチング研究会 代表)</p>		
事業名	人材のすそ野を広げるための講座・研修 スキルアップ研修 「魅力的かつ効果的な企画の作り方」		
日時/回数	12/7(水)	場 所	横浜市青少年育成センター
対 象	青少年育成者、青少年活動に関心がある人	参加者	22人
事業目的	<p>・青少年育成のための講座や事業のニーズ把握のために、コミュニケーションの基本「対話力」を身につけ、実際の活動に生かすことで、青少年育成活動を充実させる。</p> <p>・講座や事業を計画するための構想力(現実把握・目標設定・方法選択)を学ぶことで、青少年育成関係者に必要な企画力を身につける。</p>		
実施内容	<p>①「学んだ、楽しかった、仲間ができた」と参加者が実感できる講座づくりの基礎を学ぶ。</p> <p>②ニーズをつかむために大切なコミュニケーション「対話力=聞く・聴く・訊く」を体感する。</p> <p>③講座や事業を計画するための「構想力=理想描写・現実把握・作戦」の考え方を学ぶ。</p> <p>【参加費】1,000円</p> <p>【講師】佐々木 英和(宇都宮大学 地域連携教育研究センター 准教授)</p>		
事業名	人材のすそ野を広げるための講座・研修 スキルアップ研修 「ユースワーカー基礎講習」		
日時/回数	1/26(木) 2/9(木) / 2回	場 所	横浜市青少年育成センター
対 象	小学生の子どもに関わる仕事・活動をしている人、学生など	参加者	78人(延べ)
事業目的	・青少年育成活動に役立つ知識やスキルを学ぶ機会を提供することで青少年に関わる人材を拡充する。		
実施内容	<p>子どもとの接し方について講義とロールプレイを通して学ぶ講座を実施した。</p> <p>タイトル：“小学生の子ども”との信頼関係の作り方</p> <p>1日目「子どもの理解・支援のポイント」(参加者数42人)</p> <p>・子どもをどのように捉えているのか、また、子どもに対して必要な援助をどのようなものと自分が捉えているかを講義やワークを通して理解した。また、支援のポイントについて活動現場と家庭との違いや成長の発達段階を通して学んだ。</p> <p>2日目「子どもの心の“声”をキャッチするには」(参加者数36人)</p> <p>・スキルトレーニングを通じて、子どもの気持ちの理解の仕方や効果的な態度、言葉かけなどを学んだ。</p> <p>【講師】杉野 聖子(江戸川大学総合専門学校 専任教諭)</p>		

<b>事業名</b> 啓発事業 よこはまユース・シンポジウム			
日時/回数	3/10(金) 18時30分～21時	場 所	横浜市青少年育成センター
対 象	青少年活動に関心のある市民 他	参加者	60人
事業目的	・青少年の今日的な課題や話題をテーマに取り上げ、幅広い層の人々が参加できるシンポジウムの実施を通して、青少年支援への関心を高め、青少年を支える人材のすそ野を広げていく。		
実施内容	<p>「高校カフェ」を運営している実践者の報告を通じて、高校生たちが今、何を悩み、何を課題としているのか？を明らかにするとともに、高校生の自立に向けた大人や社会の関わり方について考えるシンポジウムを実施した。</p> <p>①事例報告 ・石井 正宏(ぴっかりカフェ・神奈川県立田奈高等学校) ・鈴木 健(ぼちっとカフェ・川崎市立川崎高等学校定時制)</p> <p>②パネルディスカッション パネリスト：石井 正宏/鈴木 健 コーディネーター：米田 佐知子(子どもの未来サポートオフィス代表)</p>		
<b>事業名</b> 啓発事業 地域等へのアウトリーチ			
日時/回数	通年		
対 象	青少年活動を行う団体、グループ等(任意団体等)		
事業目的	・今日的な課題や話題のテーマを取り上げ、幅広い層は参加できるシンポジウムの実施や、関心や課題に応じて地域や団体等に向く研修を実施することで、青少年支援への関心を高め、青少年を支える人材のすそ野を広げていく。		
実施内容	地域等へのアウトリーチ 相談・助言部門と連携しつつ、地域等に向く講座実施をめざし、調整をしてきた。具体的には、港南区内の地区センターと連携して「居場所講座」を8月に協働して開催する予定であったが、地区センターとの協働には至らず、地区センター単独の開催となった。		
<b>事業名</b> 人材育成のためのネットワーク形成 よこはまユースゼミ			
日時/回数	7/13(水)～3/15(水)	場 所	横浜市青少年育成センター
対 象	青少年育成者、法人事業(講座・研修)参加者 他	参加者	40人(延べ)
事業目的	・テーマ別・経験別など、関心や課題・目的ごとに気軽に意見交換できる機会を設ける。また、課題やノウハウなどを情報交換できる、団体や施設ごとのネットワークを推進する。		
実施内容	<p>さまざまなテーマを設け(取り組みや課題、経験年数等)、少人数で気軽に意見交換をする機会を設けた。</p> <p>①【7/13(水)】(参加者数5人)「今はやりの子どもと遊べるボードゲーム」 ②【7/20(水)】(参加者数6人)「心の風邪～学校に行けない理由～」 ③【9/28(水)】(申込者4人)「ちょっとブレイク～最近必要だと思ったスキル～」※中止 ④【10/14(金)】(参加者16人)「発達障がいの子ども・青少年の理解と支援」 ⑤【3/9(木)】(参加者7人)「小学生の子ども」との信頼関係の作り方～ブラッシュアップ編～(講師有) ⑥【3/15(水)】(参加者6人)「小学生の子ども」との信頼関係の作り方～ブラッシュアップ編～ ※①②⑤⑥：19時15分～20時30分(無料)、④9時30分～12時(参加費：2,000円)</p> <p><b>【協働、連携】</b></p> <p>①：城間 麻衣(NPO法人きずなの会つばさ子どもクラブ) ②：土橋 義範(一般社団法人不登校支援センター) ④：中本 テリー(臨床心理学博士、よこはまチャイルドライン スーパーバイザー) ⑤：杉野 聖子(江戸川大学総合福祉専門学校 講師)</p>		
<b>事業名</b> 人材育成のためのネットワーク形成 団体連携事業「きずな★夏祭り」			
日時/回数	8/17(水)・18(木) / 2回	場 所	横浜市青少年育成センター
対 象	横浜市内在住の小～中学生	参加者	795人
事業目的	・地域活動と青少年を結びつけ、青少年が地域活動に関心を持つきっかけを提供する。		
実施内容	<p>①横浜市、横浜市教育委員会が主催する「子どもアドベンチャー2016」のプログラムのひとつとして、「町内会の活動を参加者が体験する」という趣旨の体験型イベント「きずな★夏祭り」を実施した。</p> <p>②地域活動と青少年を結びつける事業として、横浜市市民局と共催で実施した。</p> <p>③イベントは「町内会の夏祭り」をテーマに、ゲームコーナーや飲食屋台(かき氷)、市内各区のキャラクターぬり絵や缶バッチづくりといったコーナーを設置したほか、町内会について学ぶブースを設置し、活動を学ぶ機会を提供した。</p> <p>④来場者はお客さんとして体験する他、事前に申し込んだ小学生がお店の運営に携わる「キッズボランティア」としても参加した。</p> <p>⑤当日はユースチャレンジで募集した青少年ボランティアが、ブース運営やキッズボランティア補助に携わった。</p> <p>■ 8/17(10時～16時) 来場者:317人 ■ 8/18(10時～16時) 来場者:478人</p> <p><b>【ボランティア】</b> 96人</p> <p><b>【協働、連携】</b> 横浜市町内会連合会、横浜市市民局</p>		

<b>事業名</b> 人材育成のためのネットワーク形成 団体連携事業「赤十字救急法講習会」			
<b>日時/回数</b>	9/4(日)、18(日)、19(祝)、22(木・祝)、24日(土)	<b>場所</b>	横浜市青少年育成センター
<b>対象</b>	①救急法救急員認定証所持者のうち、有効期限が1年未満の人 ②救急法救急員の講習を希望する、高校生以上の人	<b>参加者</b>	140人
<b>事業目的</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域で青少年に関わる人材を増やすため、主に初任者を対象とした研修を実施する。</li> <li>・けがや急病が発生した際の応急的な救護方法を学び、模擬訓練を通じて緊急時に対応できるスキルを身につけ、万が一の場合にも対応できる指導者を育成する。</li> <li>・共催事業として実施することで、事業を通じて青少年育成団体の活動を支援する。</li> </ul>		
<b>実施内容</b>	<p>①「赤十字救急員資格継続研修会」 9/4(日) 参加者:28人 心肺蘇生、AEDの使用、止血、けがの手当て等各項目の復習、改訂のあった学科・実技の伝達・訓練等を実施。研修を修了し、申請した参加者には、救急法救急員認定証の有効期限延長手続きを実施した。</p> <p>②「赤十字救急法救急員養成講習会」 9/18(日)、19(月・祝)、22(木・祝)、24(土) ※連続講習 参加者:28人 心肺蘇生、AEDを用いた除細動、けがの手当て、搬送法などの講義・実技訓練等を実施。 研修修了者については日本赤十字社より終了証を授与した。また、検定試験合格者には救急法救急員認定証を交付した。</p> <p>【参加費】 ①800円 ②3,200円(教科書・教材費等) 【協働、連携】 BS横浜みなと地区協議会との共催事業として実施した。</p>		
<b>事業名</b> 人材育成のためのネットワーク形成 団体連携事業(青少年活動団体のための大交流会)			
<b>日時/回数</b>	2/5(日)	<b>場所</b>	横浜市青少年育成センター
<b>対象</b>	青少年活動を行っている団体および施設職員、個人	<b>参加者</b>	65人
<b>事業目的</b>	青少年に関わる活動を行っている施設や団体を対象に、課題共有や意見交換などを通じネットワークづくりを推進する。参加者や青少年団体が、青少年活動に対する意欲の向上や活動のヒントを得られることを目的とする。		
<b>実施内容</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実行委員会形式(共催事業)</li> <li>・青少年に関わる活動を行っている団体が集まり、課題共有や意見交換を行った。 ※事務局として実行委員会を支援し、広報や参加者取りまとめ、当日運営を行った。</li> <li>・準備会:6月~2月(6/10、9/2、10/14、11/24、12/8、1/31、2/4) 7回実施</li> </ul> <p>【参加費(資料代)】 500円</p>		
<b>事業名</b> 活動充実のための研修事業 ステップアップ研修			
<b>日時/回数</b>	11/9(水)19時~21時	<b>場所</b>	横浜市青少年育成センター
<b>対象</b>	青少年活動や地域活動に関わっている人、スキルアップ研修等の修了生	<b>参加者</b>	16人
<b>事業目的</b>	コーチング入門講座で得た学びをさらに深く学び、講座参加者のスキル習熟を目指す研修を実施し、より高度なスキルを持った青少年育成に関わる人材の育成を行う。		
<b>実施内容</b>	コーチング入門講座(10月実施)で扱いきれなかったコーチングのスキルについて、講師の講義と参加者同士の活動によって理解を深めるとともに、入門講座の内容を再度振り返ることで、実生活で活用できるスキルを身につけることができる講座を実施した。(対象者を入門講座受講生に限定し、既習スキルの習熟・深化に特化した講座として実施) <b>【実施内容】</b> ①コミュニケーションタイプについて ②タイプ別の特徴を見出す・自己タイプ紹介 <b>【参加費】</b> 1,500円 <b>【講師】</b> 川本 正秀(コーチング共育研究会 代表)		
<b>事業名</b> 活動充実のための研修事業 専門研修「スタッフを育てるリーダーの役割」			
<b>日時/回数</b>	2/14(火)10時~16時	<b>場所</b>	横浜市青少年育成センター
<b>対象</b>	青少年活動や地域活動に関わっている実践者	<b>参加者</b>	14人
<b>事業目的</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的な知識やスキルを提供し、活動の核として活躍する人材を養成する。</li> <li>・子ども・青少年に関わるスタッフを育成する視点(マネジメント等の知識・技術)を学ぶことで、青少年育成団体や施設での青少年育成活動を充実させる。</li> </ul>		
<b>実施内容</b>	グループワークを通じて、参加者の抱えている課題や悩みを抽出し、課題や悩みをどのような方法で解決したらよいか、その方法について、講義やワークを通して学ぶ講座を実施した。 <b>【実施内容】</b> ①講義、②グループワーク、③ふり返り・まとめ ※講師からのまとめの時間を十分に設けることで、ワークの効果や学んだことについて理解し、実践で活用しやすくする。 <b>【参加費】</b> 2,000円 <b>【講師】</b> 杉野 聖子(江戸川大学総合専門学校 専任教諭)		

事業名	青少年育成活動の担い手の養成 馬車道カレッジ		
日時/回数	8/26(金)~10/15(土) / 4回	場所	横浜市青少年育成センター 他
対象	若者(20~30歳代の社会人等)	参加者	8人
事業目的	青少年育成活動の拡がりや充実のために、次世代の担い手となる青少年や青年層が地域活動に関心を持つ土壌づくりを行う。		
実施内容	<p>第1回：8/26(金)『オリエンテーション(横浜市青少年育成センター)』 参加者4人 第2~4回の活動先についての説明、活動オリエンテーション、コミュニケーションゲームの実施</p> <p>第2回：8/27(土)『農作業体験(舞岡公園小谷戸の里)』 参加者2人 舞岡公園小谷戸の里で畑の下草刈りや縄蒷いなどの農作業体験や、有機野菜を使った料理を実施 ※プログラム協力：特定非営利活動法人 舞岡やと・ひと未来</p> <p>第3回：9/24(土)プレイパーク活動体験(鯛ヶ崎公園プレイパーク) 参加者1人 鯛ヶ崎公園プレイパークで冒険あそび場活動に参加、公園内の竹を切り出して流しそうめん台を製作・流しそうめんを実施 ※プログラム協力：鯛ヶ崎公園プレイパーク管理運営委員会</p> <p>第4回：10/15(土)『放課後キッズクラブ活動体験(永田小学校放課後キッズクラブ)』 参加者1人 永田小学校放課後キッズクラブで、児童と一緒に活動するイベントの運営体験を実施 ※プログラム協力：永田小学校放課後キッズクラブ</p> <p>【参加費】2,000円</p>		
事業名	青少年育成活動の担い手の養成 ユースチャレンジ「きずな★夏祭り」		
日時/回数	8/5(金)・16(火)・17(水)・18(木)	場所	横浜市青少年育成センター
対象	高校生~大学生世代の青少年	参加者	65人
事業目的	青少年育成活動の拡がりや充実のために、次世代の担い手となる若者が、ボランティアや講座等に参加する機会を設け、地域活動や社会参加に関心を持つきっかけづくりを行う。		
実施内容	<p>①横浜市市民局と共催した「きずな★夏祭り」において、青少年がボランティア活動や社会参加活動の企画や運営等に主体的に関わる機会を提供した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前研修:参加者43人(8/5 13時~15時、その他別日での研修(計6回)も実施 参加者20人)</li> <li>・前日準備:参加者33人(8/16 13時~17時)</li> <li>・当日1日目:参加者52人(8/17 9時~16時30分) 当日2日目:参加者40人(8/18 9時30分~17時)</li> </ul> <p>②活動内容は当日の運営に向けた研修・準備と当日の行事運営で、参加者をグループに分けてそれぞれが主体的に活動できるように各グループに職員を配置し、活動を支援した。</p> <p>③ボランティア活動に継続して参加する機会の提供として、「きずな★夏祭り」実施後は法人内でボランティア募集のある事業(「1泊2日の秘密基地づくり」「野島クリスマスキャンプ」)の情報提供を行い、参加の働きかけを行った。</p>		

A:青少年活動を支援する事業 あ:施設の貸与

事業名	施設・設備貸出事業																										
日時/回数	通年	場所	横浜市野島青少年研修センター																								
対象	20人以上の団体(青少年、青少年指導者・育成者、市民)	利用日数	267日																								
事業目的	・青少年の体験学習・集団活動を通じた青少年育成、及び青少年指導者・育成者の研修活動の支援を図る。																										
実施内容	<p>所有する機材やライフジャケット・パドルなどの教材を提供し活動の充実を図った。事前打合せ時には、団体が作成したプログラムの不足部分など、より効率的で充実したプログラムになるようアドバイスを行った。</p> <p>宿泊利用 423団体20,965人、日帰り利用：221団体8,247人</p> <p>①施設・設備の快適性と安全性の向上 嘔吐や傷病時用のキットを常備し迅速に対応。事前打合せや入所式で事故や怪我の予防を促した。利用の手引き・体験プログラム集を改訂し、利用者に配布した。</p> <p>②プログラムの相談・コーディネート 事前打合せの実施 36回延べ210団体374人</p> <p>③利便性を高める利用者サービスの向上 給食サービス利用 84人</p> <p>④活動風景の発信 利用の手引きをホームページに掲載、体験プログラムの手順を希望者に送信した。29年度版を作成し、利用の手引きは写真や図による説明を増やし、内容を改訂。体験プログラム集は写真を大きくし、服装や飲み物など安全に活動するために重要な事項を加えて改訂した。</p> <p><b>【実績比較】</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>利用可能日数</th> <th>利用日</th> <th>稼働率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28年度</td> <td>333日</td> <td>268日</td> <td>80.5%</td> </tr> <tr> <td>27年度</td> <td>334日</td> <td>268日</td> <td>80.2%</td> </tr> <tr> <td>26年度</td> <td>333日</td> <td>265日</td> <td>79.6%</td> </tr> </tbody> </table>			年度	利用可能日数	利用日	稼働率	28年度	333日	268日	80.5%	27年度	334日	268日	80.2%	26年度	333日	265日	79.6%								
年度	利用可能日数	利用日	稼働率																								
28年度	333日	268日	80.5%																								
27年度	334日	268日	80.2%																								
26年度	333日	265日	79.6%																								
事業名	利用促進事業																										
日時/回数	通年	場所	横浜市野島青少年研修センター																								
対象	市民及び、施設利用者																										
事業目的	・多くの青少年や青少年指導者・育成者に体験活動や研修の機会を提供するため、施設の利用促進策としての広報活動の充実に取り組む。																										
実施内容	<p>①webを使った情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「利用の手引き」をダウンロードできるよう整備</li> <li>・給食サービスや新規プログラムなど利用者の利便性向上につながる情報の公開</li> </ul> <p>②紙媒体を使った広報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜市立大運動部連合会発行誌への広告掲載(4月)</li> <li>・市内放課後児童クラブ(578箇所)への案内チラシ送付(6月)</li> <li>・『ハマふれんど』への広告掲載(10月)</li> <li>・部活動・サークル活動誘致を目的とした高校・大学(255箇所)への案内チラシ送付(12月)</li> </ul> <p><b>【利用状況年間比較】</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>団体数</th> <th>利用者数(人)</th> <th>宿泊利用(人)</th> <th>日帰り利用(人)</th> <th>利用料金収入(円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28年度</td> <td>644</td> <td>29,212</td> <td>20,965</td> <td>8,247</td> <td>14,125,350</td> </tr> <tr> <td>27年度</td> <td>736</td> <td>31,238</td> <td>20,206</td> <td>11,032</td> <td>14,936,996</td> </tr> <tr> <td>26年度</td> <td>645</td> <td>27,516</td> <td>18,624</td> <td>8,892</td> <td>13,060,900</td> </tr> </tbody> </table>			年度	団体数	利用者数(人)	宿泊利用(人)	日帰り利用(人)	利用料金収入(円)	28年度	644	29,212	20,965	8,247	14,125,350	27年度	736	31,238	20,206	11,032	14,936,996	26年度	645	27,516	18,624	8,892	13,060,900
年度	団体数	利用者数(人)	宿泊利用(人)	日帰り利用(人)	利用料金収入(円)																						
28年度	644	29,212	20,965	8,247	14,125,350																						
27年度	736	31,238	20,206	11,032	14,936,996																						
26年度	645	27,516	18,624	8,892	13,060,900																						

A:青少年活動を支援する事業 お:調査、資料収集

事業名	体験プログラムの調査研究		
日時/回数	通年	場所	横浜市野島青少年研修センター
事業目的	・効果的な体験プログラムについて検証し、体験プログラムの改善・充実を図る。		
実施内容	<p>①体験プログラム効果を測るためのアンケート改訂</p> <p>②関東学院大学栄養学部管理栄養学科との協働による食事プログラム開発(教員：1人、学生：4人)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前打合せ 5/12(木)、19(木)</li> <li>・食事プログラム実施校に対するアンケート調査 5月～7月</li> <li>・メニュー試作・検討会 8/31(水)</li> <li>・考案メニューのモニタリング調査 10/7(金)、11/5(土)</li> </ul> <p>③現行体験プログラムの検討(価格改定、ラインナップの改廃、一覧表の改訂)</p>		



B:青少年を支える人材を育成する事業 い:講座、セミナー、育成

事業名	青少年指導者育成者研修		
日時/回数	①通年 ②5/21(土)12時~20時、6/25(土)10時30分~17時	場所	横浜市野島青少年研修センター及び周辺
対象	18歳以上の青少年に関わる人	参加者	60人(延べ)
事業目的	・青少年育成に関わる人材を育成するために、体験活動の知識や技術習得を目的とした講習会を実施する。		
実施内容	<p>①指導者・育成者への情報提供、相談対応 研修及び人材育成についての問い合わせ・相談なし</p> <p>②指導者・育成者を対象とした講習会の実施</p> <p>a.レクリエーション編「みんなでつくろう!キャンプファイヤー in のじま」参加者42人 【参加費】2,000円 【当日】つどいの体験とミニレクチャー(理論)、分科会ごとにオリジナルゲームをつくる(創作活動)、キャンプファイヤー体験(実践) 【講師】Y S R S 横浜市学校レクセミナー</p> <p>b.水辺の安全編「自然あそびのススメinのじま」参加者18人 【参加費】2,000円 【当日】講義・グループワーク、野外実習(自然海浜で生き物観察、ミニ水族館づくり、身近な物を使った救助方法)、ふりかえりと質疑応答 【講師】自然体験教育研究会N E E S 代表 山田 陽治</p>		
事業名	ボランティアの養成		
日時/回数	通年	場所	横浜市野島青少年研修センター
対象	高校生以上	参加者	904人
事業目的	・提供プログラムや実施事業の充実、安全性を高め、活動を支える“施設ボランティア”を育成する。また、高校生や大学生等に社会体験の場を提供するとともに、シニア層に参加を呼びかけ、子ども・青少年が多世代のボランティアとの触れ合いを通じて、豊かな人間性を育む機会を提供する。		
実施内容	<p>事業や体験プログラムに関わるボランティアを養成した。</p> <p>①のじボラ 研修会で活動目標をたて、活動終了後のふりかえりで目標達成状況の確認相談、アドバイスを行った。 研修会：9人(登録10人)</p> <p>②プログラム・事業支援ボランティア活動 体験プログラム(カヌー)延べ85人、環境保全事業(海浜清掃)延べ327人、自然体験教室延べ19人、自然体験キャンプ延べ46人、プログラム開発延べ7人、オープンデー12人、クリスマスキャンプ・ハートフル事業延べ137人、防災キャンプ19人</p> <p>③シニアボランティアの活動支援 食育プログラム(野島・250カリー・海苔)延べ76人、植栽延べ138人、タッチプール延べ13人、陶芸延べ12人、ポーセリンアート延べ4人</p> <p>【協働・連携】 NPO法人横浜金沢カヌークラブ、関東学院大学学生支援室、野島町内会、童謡の会帰帆、金沢区社会福祉協議会</p>		

C:青少年に体験機会や活動の場を提供する事業 う:体験活動等

事業名	体験プログラムの提供		
日時/回数	通年 / 423回	場所	横浜市野島青少年研修センター
対象	青少年～30歳、地域や諸室利用の大人	利用数	28,137人
事業目的	・野島特有の自然を活用した魅力ある自然体験プログラムや、公園や漁港、大学などの社会資源を活用した学校の教育カリキュラムに合わせた体験プログラムを開発・提供し、小中学校の効果的な宿泊体験学習を支援する。 ・提供プログラムの内容、活動時間、参加費、貸出物品、指導の有無が一目でわかる体験プログラム一覧を作成するとともに、提供プログラムの成果や効果を利用者や市民活動団体とともに検証し、その事例やノウハウをホームページ等で広く発信する。		
実施内容	①施設特性を活かしたプログラム a.250カレー：22回1,566人 b.野島カレー：37回2,663人 c.おにぎり作り：5回322人 d.干物作り：1回87人 e.もちつき：8回302人 f.海苔づくり：3回102人 g.デザート作り1回98人 h.食育厨房利用：6回429人 i.コミュニケーションゲーム：5回479人 j.ポーセリンアート：2回88人 k.キャンドルファイヤー：90回6,661人 l.のじたまくん：7回619人 m.室内遊具：2回67人 【協力】株ポーネルド、童謡の会帰帆 【講師】株ハーマンズインターナショナル、金沢区海苔づくり実行委員会、寺本章夫氏  ②自然環境を活かしたプログラム a.カヌー：13回886人 b.いかだ作り：18回1,580人 c.干潟観察：23回1,632人 d.漁師体験：9回485人 e.カニ釣り：15回980人 f.ハゼ釣り1回5人 g.タッチプール：13回945人 h.フォトラリー：63回3,630人 i.ナイトウォーク：37回2,287人 j.火起こし体験：5回367人 k.パードコール：7回219人 l.化石レプリカ：2回104人 m.ビーチグラス5回274人 n.手作りプラネタリウム1回2人 o.ちりめんモンスターを探せ：14回979人 ※教員を対象に事前体験を実施した。 カヌー 2回8人(3校) いかだ作り2回7人(2校) 【協力・講師】NPO法人横浜金沢カヌークラブ、漁師：早川厚一郎氏  ③地域産業と連携したプログラム 金沢区食品衛生協会及び金沢区すし商生活衛生同業組合連合会との新規プログラム開発に向けたヒアリング  ④防災プログラム a.館内フォトラリー：3回228人 b.こども防災キャンプ 9/17(土)16時～18(日)10時 36人 【内容】段ボールを使った寝場所作り、炊飯袋による食事作り、避難所運営ゲーム、避難訓練 【主催】横浜市金沢区災害ボランティアネットワーク 【広報、事務手続】金沢区社会福祉協議会		
事業名	市民活動団体と協働した体験プログラム 自然体験キャンプの実施		
日時/回数	6月～2月 / 5回	場所	横浜市野島青少年研修センター 他
対象	小学校3～6年生、保護者	参加者	148人(延べ)
事業目的	・個人や親子で参加できる体験事業の実施や、仲間づくりや自分に挑戦するアドベンチャー体験を通して、学校や学年を越えた仲間との交流や仲間と協力することで、協調性や社会性を育む機会を提供する。		
実施内容	①カヌー体験キャンプ 6/4(土)10時～5(日)12時 参加者39人、7/2(土)10時～3(日)12時 参加者36人 【対象】小学校3～6年生 【内容】カヌー体験(乗降、パドリング、野島周辺のツーリング)、バーベキュー、ナイトウォーク 【参加費】4,000円 【協力・講師】NPO法人横浜金沢カヌークラブ  ②親子チャレンジキャンプ 9/24(土)10時30分～25(日)11時30分 参加者33人(16組) 【対象】小学校3～6年生とその保護者 【内容】カヌー体験(乗降、パドリング、野島周辺のツーリング)、クラフト体験、調理体験 【協力・講師】NPO法人横浜金沢カヌークラブ  ③1泊2日の秘密基地づくり 10/8(土)9時30分～9(日)11時30分 参加者29人 【対象】小学校3～6年生 【内容】設計図づくり、段ボール(1日目)と木材(2日目)を使った秘密基地づくり、旗作り、秘密基地発表会 【協力・講師】特定非営利活動法人YPCネットワーク  ④よこはま横断ハイク 2/3(金)20時～5(日)11時30分 参加者11人 【対象】小学校3～6年生とその保護者 【内容】プレハイク、横断ハイク、夕食・朝食作り、ロープワーク 【共催】公益財団法人横浜市体育協会 【協力】関東学院大学学生支援室		

<b>事業名</b> 市民活動団体と協働した体験プログラム 自然体験・文化体験教室の実施			
日時/回数	5月～12月	場所	横浜市野島青少年研修センター、平潟湾 他
対象	小学校3年生以上	参加者	106人
事業目的	・個人や親子で参加できる事業を通して、安全かつ充実した体験機会を提供し、青少年に自信や自己肯定感を育む。		
実施内容	<p>①カヌー体験教室 5/14(土)参加者22人、28(土)参加者26人、6/18(土)参加者21人 各9時～12時 【対象】小学校3年生以上 【参加費】18歳未満1,000円、18歳以上2,000円 【共催・講師】NPO法人横浜金沢カヌークラブ</p> <p>②シーカヤック講習 7/30(土)参加者9人、31日(日)参加者10人 各9時～16時 【対象】高校1年生以上 【参加費】6,000円 【共催・講師】NPO法人横浜金沢カヌークラブ</p> <p>③親子クッキング教室 手軽にできるクリスマス料理(クリスマスケーキ、ポテトサラダ) 12/23(金)10時～13時 参加者7組18人 【対象】小学校3～6年生とその保護者 【参加費】1,500円 【講師・協力】Kids' Factory</p>		
<b>事業名</b> 市民活動団体と協働した体験プログラム 野島海岸の保全活動			
日時/回数	7月～2月	場所	野島海岸
対象	青少年～市民	参加者	331人
事業目的	・地域の貴重な環境資源の保護及びボランティア活動に参画する機会を提供する。		
実施内容	<p>第1回 7/23(土) 参加者30人 第2回 9/17(土) 参加者148人 第3回 9/18(日) 参加者19人 第4回 11/12(土) 参加者68人 第5回 2/11(土) 参加者66人 ※各13時～14時30分 【当日】野島海岸砂浜の清掃(ゴミ拾い、アマモの埋め立て)、ゴミの分別と集計を行った。 【事後】2/11(土) 実行委員会を実施し、年間活動のふりかえりと次年度計画について話し合いを行った。 【主催】オールクリーン野島ビーチ実行委員会(よこはまユース、海をつくる会、ガールスカウト神奈川県第53団、こどもエコクラブ野島自然観察探見隊) 【協力】野島町内会、横浜市金沢区社会福祉協議会、NPO法人横浜金沢カヌークラブ</p>		
<b>事業名</b> 市民活動団体と協働した体験プログラム 自然体験・文化体験教室(金沢区受託事業)			
日時/回数	11/12(土)9時～17時	場所	横浜市野島青少年研修センター、野島公園
対象	小学生及び保護者	参加者	19組
事業目的	<p>・自然体験活動を通じて、自然や地域への関心を高める。 ・親子や友だち同士で参加できる体験事業を通して社会性を育む機会を提供する。</p>		
実施内容	<p>【事前】主催者(金沢区区政推進課)との打合せ、講師・スタッフの手配、講師との打合せ 【当日】水路での生き物採取・観察、砂浜でのレジンペレット集め、タッチプール、公園内フォトラリー 【事後】参加者アンケートの実施、主催者とのふりかえり 【主催】横浜市金沢区(区政推進課) 【講師】海をつくる会、こどもエコクラブ野島自然観察探見隊</p>		
<b>事業名</b> 困難を抱える青少年のための体験活動支援 不登校児童生徒の宿泊体験の実施			
日時/回数	11/21(月)11時～22(火)12時30分	場所	横浜市野島青少年研修センター
対象	ハートフルスペースに通室している児童生徒	参加者	106人
事業目的	・ハートフルスペース(市教育委員会)と連携して、児童生徒が体験活動を通じて社会への興味関心を広げ、多くの人と接することによって、自己をみつめ自信を回復し、コミュニケーション能力を育む機会を提供する。		
実施内容	<p>【事前】ボランティア・支援員説明会 11/4(金)17時～20時 参加者14人 【当日】宿泊参加者58人、日帰り参加者48人 1日目：餅つきとレクリエーション(宿泊参加者と日帰り参加者が一緒に参加) ふれあいタイム①(ちりめんモンスターを探せ、ラダーゲッター) ふれあいタイム②(カレー作り、卓球、ウノ、トランプ、将棋、オセロ、ジェンガ等から選択) 夕食 キャンドルファイヤー 2日目：朝食、シーグラス作り、清掃 【主催】横浜市教育委員会</p>		

事業名	困難を抱える青少年のための体験活動支援 第21回野島クリスマスキャンプ2016		
日時/回数	12/10(土)11時30分~11(日)13時	場所	横浜市野島青少年研修センター
対象	横浜市立小中学校個別支援学級の児童・生徒	参加者	35組
事業目的	・横浜市立小中学校個別支援学級の児童・生徒を対象に、生活体験、集団活動の機会を提供し児童・生徒の成長を図る。 ・参加するすべての人の交流を図り、障がい者やその保護者、青少年ボランティアの相互の理解を深める。		
実施内容	第21回野島クリスマスキャンプ2016 <b>【事前】</b> ①野島クリスマスキャンプ実行委員会が、「青年ボランティアの募集」、「参加者の募集」、当日の「事業計画」を定めた。 ②実行委員会事務局の業務(実行委員との連絡調整、会場の確保、広報、参加者・ボランティア募集受付、保険加入、助成金申請、しおり・報告書の印刷 等)【場所】青少年育成センター、青少年交流・活動支援スペース  <b>【実施内容】</b> ①ボランティア事前研修 障がい児理解についての研修、当日及びふれあいの会の説明。 11/16(水)19時~20時30分、19(土)13時~14時30分 【場所】青少年交流・活動支援スペース ②ふれあいの会 11/27(日)10時~13時 参加者139人 参加者、保護者、ボランティアが相互理解を深めた。 【場所】野島青少年研修センター ③本キャンプ 1日目：クリスマスディナー作り、キャンドルファイヤー 2日目：親子活動(和菓子作りと茶道体験) 【場所】野島青少年研修センター  <b>【事後】</b> ①実行委員会によるふりかえり ②事業報告書作成  <b>【主催】</b> 野島クリスマスキャンプ実行委員会  <b>【後援】</b> 横浜市教育委員会、横浜市PTA連絡協議会、横浜市立小学校長会、横浜市立中学校長会、(一財)横浜市安全教育振興会  <b>【助成金】</b> (社福)横浜市金沢区社会福祉協議会、(一財)横浜市安全教育振興会、(公財)日揮社会福祉財団他		
事業名	困難を抱える青少年のための体験活動支援 困難を抱える青少年を対象とした宿泊キャンプの実施		
日時/回数	通年 / 5回	場所	横浜市野島青少年研修センター
対象	支援を必要とする家庭に育つ小中学生等と活動団体	参加者	5団体
事業目的	・生活保護世帯や生活困窮状態にあるなど養育環境に課題があり、支援を必要とする家庭に育つ小中学生等を対象に、生活体験、自然体験などの体験機会を通して、生活する上での規範意識を身に付けるとともに、協力・協調するための人間関係を築く力を育む。 ・スタッフ不足や経験不足などで体験プログラム実施が難しい団体に対して、研修センターの体験プログラムのサポート体制等を築くことで気軽に体験できる機会を提供する。		
実施内容	①研修センターの体験プログラムのサポート 10/30(日) ことぶき青少年広場デイキャンプ 参加者20人 11/19(土)~20(日) 多文化共生教育ネットワークかながわ宿泊キャンプ 参加者68人 2/28(火) 横浜市青少年相談センター宿泊キャンプ 参加者19人  ②中学校個別支援級が行う職業体験実習の受入 11/7(月)、8(火) 横浜市立西柴中学校個別支援学級 参加者2人  ③わくわく生活体験キャンプ 3/30(木)14時~31(金)14時 西区・鶴見区寄り添い型支援施設 参加者12人 生活保護世帯や生活困窮状態にある支援を必要とする家庭に育つ小・中学生等を対象に宿泊体験キャンプを実施した。		

事業名	地域交流事業 地域ネットワーク会議の実施		
日時/回数	通年	場 所	横浜市野島青少年研修センター
対 象	地域住民	参加者	126人
事業目的	・近隣地域と交流を深めることで、施設の活動及び青少年に対する理解を深めてもらう。		
実施内容	<p>①地域ネットワーク会議の実施</p> <p>a.地域ネットワーク会議                  2/22(水)14時～15時30分 参加者9人(野島町内会、乙船町内会、野島公園)                  【事前】事前ヒアリング 野島公園とのヒアリング 2/2(木)13時15分～13時45分                  野島町内会とのヒアリング 2/3(金)15時30分～16時                  【当日】自己紹介、防災への取り組みと連携、野島青少年研修センターと野島公園への要望等について話し合った。                  【場所】野島青少年研修センター</p> <p>b.近隣連携事業打合せ                  2/3(金)15時～15時30分 参加者4人(野島町内会、金沢区福祉保健センター職員)                  【場所】野島青少年研修センター</p> <p>②地域住民と連携した文化活動教室の実施</p> <p>a.こども陶芸教室 ボランティア延べ12人                  【場所】野島青少年研修センター                  【講師・協力】須藤義明、野島町内会                  ・マグカップ：11/20(日)13時～15時 参加者19人                  【対象】小学校3～6年生                  【参加費】1,200円                  ・アクセサリー：2/26(日)13時～16時(野島オープンデーで実施) 参加者27人                  【対象】小学校3～6年生                  【参加費】300円</p> <p>b.野島オープンデー 2/26(日)13時～16時 参加者95人 学生ボランティア6人                  【場所】野島青少年研修センター                  【内容】おはじぎ、カプラを使った遊び、カヌー操作体験、館内の車椅子対応の施設見学、野島カレー試食会、こども陶芸教室</p> <p>③地域との防災の取り組み</p> <p>a.金沢区災害ボランティアネットワーク定例会への出席 事業部会 毎月1回                  【場所】いきいきセンター金沢</p> <p>b.防災遠足(金沢区災害ボランティアネットワーク)への参加 12/4(日)13時30分～18時                  【場所】横浜市民防災センター他</p> <p>c.金沢区災害ボランティアセンターシミュレーション情報発信訓練のボランティア受け入れ 3/10(土)11時～14時                  ボランティア：6人                  【場所】野島青少年研修センター</p> <p>d.野島町防災避難訓練への参加 10/2(日)9時～11時                  【主催】a.～c.金沢区災害ボランティアネットワーク d.野島町防災委員会</p>		

## 事業の公益性と収益事業について

公益法人認定法第 22 条第 1 項の規定に基づき、当法人の平成 28 年度事業報告書を行政庁へ提出するために定められた書式により、事業の公益性及び収益事業について報告する。

### 個別の事業内容について 公益目的事業について

事業番号	事業の内容	当該事業の事業比率	
公 1	すべての青少年が周囲の人々から見守られ、人のつながりの中で成長することができる社会を醸成するとともに、青少年にさまざまな体験機会を提供し、その成長を促す事業	96.5	%

### 〔1〕事業の概要について

<p>A 青少年活動を支援する事業</p> <p>A - I 青少年活動を支援するための青少年施設の貸出</p> <p>この事業は、青少年育成活動を展開する安全で効果的な場を提供することで、青少年の健全な育成に寄与することを目的とした事業です。横浜市内で行われている青少年の居場所づくり、就労体験、社会体験、環境保全、国際交流、自然科学体験活動等を企画、実施するための指導者・育成者による打ち合わせや準備、実際の活動の場として施設を提供するとともに、学校や普段の生活の中では体験しにくいバンド活動、演劇、表現活動や集団での宿泊体験活動等の青少年の主体的な活動の場として利用できるよう、できる限り施設利用に関する規則等の制限を設けず広く青少年に提供するために、職員が情報提供や運営補助等の支援を行っています。</p> <p>事業には、いくつかの種類がありますが、さまざまな活動の場を提供する同一事業です。事業の特色としては、青少年の指導者・育成者の活動拠点(育成センター)、青少年の主体的な活動拠点(交流・活動支援スペース)、青少年の集団宿泊体験活動拠点(研修センター)の機能を有機的に結びつけ、青少年及び青少年の育成を目的としているすべての個人・団体を対象に、活動の場として、施設を安全で効果的に利用していただくために、利用相談や事前打ち合わせ、情報提供を行うとともに、実際の活動中には安全の確保並びに運営補助を職員が行っています。また、施設料は青少年及び青少年の育成を目的としている個人・団体であるすべての人が活動の場として利用しやすい金額に設定しています。</p> <p>なお、法人が実施するさまざまな青少年育成活動実施のため、横浜市が「横浜市青少年施設条例」により設置している指定管理施設(横浜市青少年育成センター、横浜市野島青少年研修センター)に加え、青少年の交流・活動支援事業の一環としての青少年の交流・活動支援スペースを、貸し出しています。</p> <p>これら施設の特徴や利用案内に関しては、施設パンフレット及びホームページに概要を掲載し広く一般に周知しています。</p> <p>事業の財源は、施設利用料、横浜市からの指定管理料及び補助金並びに一般寄附金で構成されています。</p> <p>《事業内容(施設の開館日数・利用状況)》</p> <p>■育成センター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>開館日数：338日</li> <li><input type="checkbox"/>研修室・スタジオ：利用件数 5,033 件(59,449 人)</li> <li><input type="checkbox"/>スタジオ利用件数：1,564 件</li> <li><input type="checkbox"/>印刷室利用件数：730 件</li> <li><input type="checkbox"/>物品貸出利用件数：27 件</li> <li><input type="checkbox"/>利用促進事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「きずな★夏祭り～町内会祭りの裏がわをウォッチング!」：8/17、18、参加者 795 人</li> </ul> </li> </ul>
--

■交流・活動支援スペース

□開館日数：346日

□利用状況：青少年31,172人（1日平均90人）、青少年以外28,164人（1日平均81人）、  
総計59,336人（1日平均171人）

□利用促進事業

- ・利用促進キャンペーンの実施：愛称募集と決定「さくらリビング」、GWキャンペーン、夏期利用料金半額キャンペーン 他
- ・インターネットやチラシによる広報活動：ツイッターの開設、街頭ティッシュ配り 他

□機能継承につながる利用促進

- ・利用者意見交換会4/26～28、青少年へのヒヤリング、ホームページでの案内

■研修センター

□開館日数：359日

□利用可能日：333日

□利用日数：268日

□宿泊：団体423件（20,965人）

□日帰り：団体221件（8,247人）

□合計：団体644件（29,212人）

□利用促進事業

- ・ホームページの整備：「利用手引き」のダウンロード、給食サービスや新規プログラム等利用者向上につながる情報の公開
- ・横浜市立大学運動部連合会及びハマふれんどの発行誌への広告掲載
- ・市内放課後児童クラブ（578か所）、高校及び大学（255か所）へ利用案内チラシ送付
- ・市内小中学校へ宿泊体験学習の利用案内資料送付（年3回）

A - II 青少年活動を支援するための相談・助言・コーディネート【相談事業】

この事業は、青少年と青少年を取り巻く大人がともに育つ環境を醸成することにより青少年の健全な育成に寄与することを目的とした事業です。横浜市内で行われている青少年の居場所づくり、就労体験、社会体験、環境保全、国際交流、自然科学体験活動等に係ることにより青少年自らが学び育つ機会を提供するために相談・助言・コーディネートの支援を行っています。

事業にはいくつかの種類がありますが、活動内容は同一であり「相談、助言」事業に分類されます。事業の特色としては、活動希望者の経験や希望を踏まえ、活動の内容紹介（活動実施）、活動の企画・運営に関する相談・助言及びボランティアを必要とする団体や施設に、要件を満たす活動希望者の紹介を行っています。これらの相談業務の対象は、青少年及び青少年の育成を目的としているすべての個人・団体を対象としています。

また、情報発信・受付・相談・助言すべての活動を職員により実施し、活動の実施を希望する個人・団体に対し、活動の実施に関する知識・ノウハウ等を提供することで、青少年の実施する活動を実りあるものにするために相談・助言を行っています。

これらの事業内容及び相談窓口に関しては、施設パンフレット及びホームページに概要を掲載し、広く一般に周知しています。

事業の財源は、横浜市からの指定管理料及び補助金並びに一般寄附金から構成されています。

《事業内容》

■育成センター

□青少年育成に関わる相談：相談件数51件（通年）

青少年育成活動などに関する問い合わせや相談、青少年に関する市民、青少年からの相談の「一次的窓口」として開設。

月1回のコーディネーター会議でケース検討、情報を共有。研修会を2回実施。

□ホームページ等を使った情報提供

掲示板などを通じて情報を発信。「講座・研修」「助成金」等の情報を提供。登録者に対する情報提供（メルマガ形式）。

## ■交流・活動支援スペース

### □相談支援事業

- ・日常的な相談支援：ロビーや受付での日常的な会話を通じた相談・傾聴件数：497件
- ・個別相談：家庭や学校生活のトラブル、アルバイトや就職など 個別相談件数：129件
- ・啓発事業：2/6～19 エイズの世界（パネル展）85人、  
3/18、25 ライフプラン講座（お金編）48人、3/31 SNS 講座 18人

## A - III 青少年活動を支援するための活動参加型の相談・コーディネート

この事業は、青少年と青少年を取り巻く大人がともに育つ環境を醸成することにより青少年の健全な育成に寄与することを目的とした事業です。横浜市内で行われている青少年の居場所づくり、就労体験、社会体験、環境保全、国際交流、自然科学体験活動等に係ることにより青少年自らが学び育つ機会を提供するため、横浜市内で実施されている活動を継続及び充実していくため職員が活動現場に出向き、活動を企画・実施する指導者・育成者に相談・助言・コーディネート の支援を行っています。

事業には、いくつかの種類がありますが、活動内容はすべて活動参加型で同一であり「相談、助言」事業に分類されます。事業の特色としては、活動組織の構成や規模、活動内容や希望に従い、必要とされる要件を満たすために、事務局業務の補助や活動プログラムの企画への相談・助言、ボランティア（人材）の紹介、人材育成や啓発のための講師の派遣、他の活動団体や機関等のコーディネート等多様な支援を行っています。

これらの業務の対象は、青少年及び青少年の育成を目的としているすべての個人・団体を対象としています。相談・助言業務は、青少年活動に精通した職員が実施し、活動の継続及び充実のための相談・助言を行うほか情報収集や情報共有を図るためのネットワークの構築やその実施内容を資料にまとめホームページに概要を掲載し、希望者に無料で配布しています。

事業の財源は、横浜市からの指定管理料及び補助金並びに一般寄附金から構成されています。

### 《事業内容》

## ■事業係

- 知っておきたい！子ども・若者どこでも講座：55件  
地域や学校、青少年育成に携わる市民・団体等が自ら企画・実施する「子ども・若者」をテーマとする講演会や研修会に無料で講師を派遣。
- 地域の青少年の居場所の活動推進・支援（磯子区・神奈川区の地域活動支援）  
法人のもつ居場所づくりのノウハウを提供し、活動を推進。利用者合計 35,965人
- 地域活動支援事業（相談、助言、活動プランニング）：相談等対応 56件
- 企業等の社会貢献活動支援事業：4件  
「よこはま子ども寄り添いブック寄付金」の立ち上げ 他

## ■キッズ運営課

- はまっ子・キッズ交流事業：4回、参加者延べ33人  
(はまっ子ふれあいスクール26人、放課後キッズクラブ7人)  
「放課後キッズクラブ」の転換に関して、はまっ子ふれあいスクールのスタッフがどんなことに戸惑いを感じているのかを探り、課題等を共有した。
- 放課後キッズクラブ移行支援事業  
・相談・助言：計5法人24件、情報交換会2回、講習会1回、通信発行4回  
都筑区内のはまっ子ふれあいスクールおよび地域立ち上げ型NPO法人が運営する放課後キッズクラブを対象に、放課後キッズクラブへの円滑な移行に向け、必要なノウハウの伝達や情報交換会を実施した。

## ■育成センター

- 青少年育成に関わる団体とのネットワーク形成（よこはまユースゼミ）：全5回、参加者延べ40人  
情報交換を通じて活動者が課題とする青少年に関するテーマについて知識を深め、活動の充実を図るとともに、ネットワークの形成をはかった。



#### A - IV 青少年育成に活用できる活動資源（NPOや企業CSR等の活動）の調査

この事業は、青少年育成活動に活用できる体験活動のリソースを調査し、青少年の育成活動を行っている団体及び小中高校に提供することで、青少年の健全な育成に寄与することを目的とした事業です。横浜市内で行われているNPOや企業のCSR活動等青少年育成活動や学校の体験学習が連携することで、青少年自らが学び育つ体験活動の領域拡大や活動機会を充実するため、職員が市内の活動を調査し資料を作成しています。

事業の特色としては、年度ごとに社会体験、文化活動、福祉活動、環境保全、国際交流等多様な活動領域の中から調査領域を今年度は福祉活動に定め、主に横浜市内に活動拠点を置くNPOや企業等の活動を調査し、その結果をホームページに掲載しています。また、体験活動の領域だけではなく体験活動に参加し難い課題のある青少年を対象とした体験プログラムの企画・実施に活用してもらえる情報やプログラム開発のための調査・研究に取組み、対象となる青少年の枠を拡大しました。成果がまとまり次第、モデルプログラムや報告書として無料で配布するとともに、ホームページで周知します。なお、提供した情報に関する相談は、青少年及び青少年育成を目的としているすべての個人・団体を対象とし、問い合わせには職員が対応しています。調査・研究業務は職員が主体となって行いますが、専門分野における団体の活動状況や内容等に関しては必要な専門団体等と一緒にを行っています。

事業の財源は、横浜市からの補助金及び指定管理料並びに一般寄附金から構成されています。

##### 《事業内容》

###### ■事業係

- 青少年の「居場所」に関するアンケート調査の実施
  - ・ 調査対象：①市立中学校1年～3年 ②市立高校1年～3年以上
  - ・ 回答件数：2643票
- 研究・活動報告事例集「YOKOHAMA EYE'S」発行：1,200部

###### ■研修センター

- 体験プログラムの調査研究
  - ・ 体験プログラムについてのアンケート改訂及び現行プログラムの検討（価格改定等）
  - ・ 関東学院大学栄養学部管理栄養学科との協働による食事プログラム開発（学校へのアンケート調査、放課後キッズクラブ等協力によるモニタリング調査）

#### B 青少年を支える人材を育成するための事業

##### B - I 青少年を支える人材を育成するための講座・研修

この事業は、青少年を支える人材を育成することで青少年と青少年を取り巻く大人がともに育つ環境を醸成し、青少年の健全な育成に寄与することを目的とした事業です。青少年及び青少年育成に関する知識や技能を習得することで、青少年育成への理解を深め青少年育成活動の普及を促進し、青少年自らが学び育つ機会を充実するための人材育成を行っています。

事業にはいくつかの種類がありますが、活動内容はすべて同一であり「講座、セミナー、育成」事業に分類されます。事業の特色としては、日々の青少年育成活動の実践を通じて収集した課題や習得した知識や経験等から職員が青少年育成活動に必要なテーマを検討し、年間プログラムを企画の上、ホームページ、チラシ、広報等を通じ広く一般に周知し、すべての人が参加可能な講座・研修を実施しています。講座・研修の参加費は無料、教材費や資料代は実費としており、参加しやすい設定にしています。

研修（講師等）は職員が行いますが、専門機関の支援が必要な場合は外部に依頼しています。

事業の財源は、横浜市からの補助金及び指定管理料並びに一般寄附金から構成されています。

##### 《事業内容》

###### ■事業係

- 青少年の支援に関わる人材の育成等
  - ・ 子ども・若者エンパワメントセミナー：7/14、参加者198人

## ■キッズ運営課

### □放課後3事業スタッフ人材育成研修

- ・放課後事業“スタッフ力”アップ研修「キケン」の芽の摘み取り方：1/27、2/23、参加者延べ40人

## ■育成センター

### □青少年人材養成研修《2講座》

- ・「青少年の居場所づくり講座」：8～9月（全4回）、参加者延べ91人
- ・「日赤救急法講習会」：9/4、9/18～24、参加者延べ140人

### □ユースコーディネーター養成研修

- ・「ユースコーディネーター養成研修」：11～12月（全4回）、参加者延べ95人

### □スキルアップ講座《7講座》

- ・「ユースワーカー基礎講習」：1/26、2/9、参加者78人
- ・「広報・記録のためのデジカメ入門講座」：6/10、参加者28人
- ・「発達障がいの子ども・青少年の理解と支援講座」：7/7、12、参加者134人
- ・「コーチング入門講座」：10/19、26、参加者延べ94人
- ・「コーチングステップアップ研修」：11/9、参加者16人
- ・「事業企画講座」：12/7、参加者22人
- ・「ユースワーカーリーダー研修」：2/14、参加者14人

### □青少年を支える層の拡大《2講座》

- ・「よこはまユース・シンポジウム」：3/10、参加者60人
- ・「馬車道カレッジ」：8/26、27、9/24、10/15、参加者延べ8人

## ■交流・活動支援スペース

### □青少年サポーター育成事業

青少年がより活動しやすい環境を作るため、職員と青少年とをつなぐ、大学生以上の支援ボランティアを育成しました。活動71回 延べ活動者数：284人

## ■研修センター

### □青少年指導者育成者研修《2事業》

- ・レクリエーション講習：5/21、参加者42人
- ・水辺の安全講習：6/25、参加者18人

### □ボランティアの養成

ボランティア研修会、体験プログラム及び事業支援のボランティア活動提供、シニアボランティアの活動支援：活動人数延べ904人

## C 青少年に体験機会や活動の場を提供する事業

### C-I すべての青少年を育むための多様な体験事業

この事業は、青少年が学校や家庭では体験しにくい多様な体験活動に参加することで、青少年の健全な育成に寄与することを目的とした事業です。青少年が体験を通じ自ら感じ考えることで学び育つことができる就労体験、社会体験、環境保全、国際交流、自然科学体験、宿泊体験等の集団活動体験機会を提供するための体験事業を企画・実施しています。

事業にはいくつかの種類がありますが、活動内容は同一であり「体験活動」事業に分類されません。事業の特色としては、集団で協力して目標を達成していく過程で青少年が社会性や協調性を育み自ら成長していくことができるよう、集団や個人の特性に応じて活動領域や手法を変え、すべての青少年を対象として職員が企画した体験活動を、ホームページ、事業チラシ、広報等を通じて広く周知し実施しています。実施場所は、横浜市内の公営の青少年施設、野外活動施設等を中心に活用し、参加費は無料で、教材費や施設利用料（宿泊費等）を実費としており、青少年が参加しやすい設定にしています。

事業の財源は、横浜市からの指定管理料、委託料及び補助金並びに一般寄附金で構成されています。

《事業内容》

■総務課

- 寄り添い型支援事業「かもん未来塾」の運営  
毎週月～金曜日の11時～19時、火曜日の11時～21時、登録数：14人

■事業係

- 自然・社会体験プログラムの開発及び体験機会の提供
  - ・市民団体と協働した体験プログラムの実施：6/1～2 参加者延べ830人
  - ・高校生水源林ボランティア：8/23、参加者71人
  - ・道志村児童受入れ事業：10/6～7（1泊2日）、参加者16人
  - ・市立高校と連携した体験活動の実施：全5回、参加者延べ136人
  - ・横浜総合高校交流相談カフェの実施：全15回 10/5～3/1 参加者2,959人

■交流・活動支援スペース

- 青少年の交流・体験事業
  - ・交流促進事業：①英会話カフェ：17回 95人 ②パンケーキカフェ：2回 16人
  - ・青少年チャレンジ事業：
    - ①ヨガ教室：8回 38人 ②ドラム相談会：6回 21人 ③ダンス教室：1回 3人
  - ・青少年ボランティア事業：
    - ①マジックボランティア：4回 15人、②地域清掃ボランティア活動：7回 47人
- 社会参加プログラム
  - ・社会体験・就労体験活動
    - ①社会科見学：2回 26人、②社会教育実習の受入：3人 ③中学生職場体験の受入 4人
  - ・若者コミュニティ事業
    - ①カルチャークラブクラ：15回 75人 ②スポーツクラブ：20回 50人
    - ③中高生の井戸端会議：7回 49人
  - ・青少年委員会の運営：委員登録数7人 定例会：毎月第三木曜日実施
- 困難を抱える青少年の活動支援事業
  - ・さくらリビング勉強会：47回 244人 毎週火曜日 16時～19時
  - ・中退・不登校向けの昼間の学習会 8/19～28の夏期集中勉強会 参加者33人

■研修センター

- 市民活動団体と協働した体験プログラムの実施《4事業》
  - ・自然体験キャンプ
    - カヌー体験キャンプ：6/4～5（1泊2日）、7/2～3（1泊2日）、参加者延べ75人
    - 親子チャレンジキャンプ：9/24～25（1泊2日）、参加者33人
    - 1泊2日の秘密基地づくり：10/8～9（1泊2日）、参加者29人
    - よこはま横断ハイク：2/3～5（2泊3日）、参加者11人
  - ・自然体験・文化体験教室
    - カヌー体験教室：5/14、28、6/18、参加者延べ69人
    - シーカヤック講習：7/30、31、参加者延べ19人
    - 親子クッキング教室：12/23、参加者7組18人
  - ・野島海岸の保全活動
    - オールクリーン野島ビーチ：7/23、9/17、18、11/12、2/11、参加者延べ331人
  - ・金沢区の自然に触れ合う、楽しむ（金沢区受託事業）11/12、参加者43人
- 困難を抱える青少年のための体験活動支援《3事業》
  - ・ハートフルスペース宿泊体験：11/21～22、参加者延べ106人
  - ・野島クリスマスキャンプ：12/10～11（1泊2日）、参加者213人、ボランティア47人
  - ・困難を抱える青少年を対象とした宿泊キャンプの実施
    - わくわく生活体験キャンプ：3/30～31、参加者12人
    - 職業体験活動の受入れ：11/7～8、2人
    - 支援機関等の活動支援：10/30、11/19～20、2/28～3/1、3団体

□体験プログラムの提供《全 30 事業》

- ・施設特性を活かしたプログラム（野島カリー他）：通年 189 団体
- ・自然環境を活かしたプログラム（いかだ作り他）：通年 226 団体
- ・地域産業と連携したプログラム 新規開発に向けて 2 団体とヒヤリングを行った。
- ・防災プログラム こども防災キャンプ：9/17～18(1泊2日)、参加者 36 人  
館内フォトラリー：通年、3 団体

□地域交流事業

- ・地域ネットワーク会議：2/3、22、参加者延べ 13 人
- ・地域住民と連携した文化活動教室  
こども陶芸教室：11/20、2/26、参加者 46 人、地域ボランティア延べ 12 人  
野島オープンデー：2/26、参加者 95 人、学生ボランティア 6 人
- ・地域との防災の取り組み  
金沢区災害ボランティアネットワーク事業部会への出席、防災遠足及び野島町防災避難訓練への参加、金沢区災害ボランティアセンターシュミレーション情報発信訓練のボランティア受入

C - II 小学生を育むための放課後の安全な遊び場と集団活動の場を提供する事業【放課後児童育成】

この事業は、小学生に放課後の安全な遊び場と集団活動の場を提供することにより、青少年の健全な育成に寄与することを目的とした事業です。現在、放課後児童育成活動として、放課後キッズクラブを運営し、小学生が集団での遊びや体験活動を通じ、自ら学び育つ機会を提供するため、小学校に在籍するすべての児童を対象とした体験活動を行っています。

事業の特色としては、横浜市の放課後児童育成施策に基づき、学校では得られない体験機会の設定、プログラム内容の継続性、子どもたちの成長や発達に応じたプログラム、異年齢児の交流やリーダー養成への取り組み、子どもたちの「食べる力」の育み、土曜日に親子で過ごす機会の提供、大勢のボランティアの協力、市民や企業の協力を大切にする、という 8 つの視点を持った体験活動を職員が企画・実施しています。実施場所は学校施設及び近隣の公園並びに公営施設等で、日祝日を除く毎日活動を行っています。

活動の内容や案内などの資料を職員が毎月作成し、地域及び対象となる児童すべてに無料配布し、事業を広く周知しています。

活動への参加は無料、教材費や交通費等は実費としており、参加しやすい設定にしています。ただし、放課後から 19 時までの利用に関しては横浜市放課後キッズクラブ事業実施要綱に定められた利用料の負担があります。

当事業の財源は、夜間利用料及び横浜市からの補助金で構成されています。

《事業内容》

■キッズ運営課

□26 か所の放課後キッズクラブ運営：各キッズ月平均約 1,356 人、総計 423,171 人が利用。

在籍児童の 51.2%（26 か所の平均値）が登録

実施プログラム数：毎月各キッズ平均 15.8 回、年間総計 4,919 回（参加者延べ 113,137 人）

□会議・スタッフ研修等

- ・評議会：キッズ毎に年 2 回開催
- ・保護者会：キッズ毎に年 2 回以上開催
- ・主任会議、指導員会議、スタッフ研修を実施

□平成 29 年 3 月開設 1 か所〈霧が丘義務教育学校放課後キッズクラブ（緑区）〉に応募しましたが、選外となりました。

《各キッズクラブ概要》

■すすき野小学校キッズクラブ（青葉区）

- 在籍人数：203 人
- 登録人数：82 人
- 延べ参加児童数：5,571 人
- プログラム実施数：237 回
- プログラム参加人数：3,128 人
- 主なプログラム：コマ・けん玉／ハンドベル／卓球／キッズ菜園 など

■和泉小学校キッズクラブ（泉区）

- 在籍人数：358 人
- 登録人数：164 人
- 延べ参加児童数：9,965 人
- プログラム実施数：73 回
- プログラム参加人数：2,936 人
- 主なプログラム：3 B 体操／百人一首／バドミントン／ドッジボール など

■笹野台小学校キッズクラブ（旭区）

- 在籍人数：598 人
- 登録人数：362 人
- 延べ参加児童数：18,119 人
- プログラム実施数：311 回
- プログラム参加人数：6,000 人
- 主なプログラム：スポーツチャンバラ／ソフトテニス教室／編み物教室／ミサンガ など

■岡村小学校キッズクラブ（磯子区）

- 在籍人数：375 人
- 登録人数：213 人
- 延べ参加児童数：13,088 人
- プログラム実施数：186 回
- プログラム参加人数：3,963 人
- 主なプログラム：ドッジボール同好会／クラフト／キッズまつり／親子木工教室 など

■浦島小学校キッズクラブ（神奈川区）

- 在籍人数：471 人
- 登録人数：258 人
- 延べ参加児童数：17,795 人
- プログラム実施数：154 回
- プログラム参加人数：3,045 人
- 主なプログラム：将棋オセロ／3 B 体操／ハンドベル／もしかめ検定／カプラ など

■瀬ヶ崎小学校キッズクラブ（金沢区）

- 在籍人数：394 人
- 登録人数：200 人
- 延べ参加児童数：10,090 人
- プログラム実施数：100 回
- プログラム参加人数：1,529 人
- 主なプログラム：ドッジボール／瀬ヶ崎探検隊／卓球／フラワーアレンジメント など

■能見台小学校キッズクラブ（金沢区）

- 在籍人数：466 人
- 登録人数：267 人
- 延べ参加児童数：11,070 人
- プログラム実施数：192 回
- プログラム参加人数：2,609 人
- 主なプログラム：サッカー教室／チャレンジデー／オセロ大会／昔遊び など

■港南台第三小学校キッズクラブ（港南区）

- 在籍人数：289 人
- 登録人数：178 人
- 延べ参加児童数：13,178 人
- プログラム実施数：254 回
- プログラム参加人数：4,862 人
- 主なプログラム：キッズバザール／クワガタ研究会／野菜を植えよう／囲碁 など

■日吉南小学校キッズクラブ（港北区）

- 在籍人数：819 人
- 登録人数：404 人
- 延べ参加児童数：23,026 人
- プログラム実施数：122 回
- プログラム参加人数：4,322 人
- 主なプログラム：プラバン／ドッジボール／絵画教室／キッズ工房 など

■飯島小学校キッズクラブ（栄区）

- 在籍人数：599 人
- 登録人数：311 人
- 延べ参加児童数：16,317 人
- プログラム実施数：373 回
- プログラム参加人数：5,011 人
- 主なプログラム：プラバン／粘土工作／アイロンビーズ／ドッジボール など

■桜井小学校キッズクラブ（栄区）

- 在籍人数：338 人
- 登録人数：225 人
- 延べ参加児童数：13,382 人
- プログラム実施数：144 回
- プログラム参加人数：3,637 人
- 主なプログラム：ドッジボール／バドミントン／プラバン／藍染め／茶道教室 など

■瀬谷さくら小学校キッズクラブ（瀬谷区）

- 在籍人数：415 人
- 登録人数：158 人
- 延べ参加児童数：7,461 人
- プログラム実施数：143 回
- プログラム参加人数：2,871 人
- 主なプログラム：コマまわし記録会／キッズシアター／アイロンビーズ／工作教室 など

■南瀬谷小学校キッズクラブ（瀬谷区）

- 在籍人数：814 人
- 登録人数：307 人
- 延べ参加児童数：16,046 人
- プログラム実施数：163 回
- プログラム参加人数：7,254 人
- 主なプログラム：藍染め／仮装パーティー／段ボールハウス／工作 など

■折本小学校キッズクラブ（都筑区）

- 在籍人数：768 人
- 登録人数：363 人
- 延べ参加児童数：24,008 人
- プログラム実施数：215 回
- プログラム参加人数：3,728 人
- 主なプログラム：ドッジボール／ハロウィンウォーク／茶道体験 など

■上寺尾小学校キッズクラブ（鶴見区）

- 在籍人数：577 人
- 登録人数：305 人
- 延べ参加児童数：19,157 人
- プログラム実施数：251 回
- プログラム参加人数：6,754 人
- 主なプログラム：フラダンス／ビーズ教室／ドッジボール／習字 など

■寺尾小学校キッズクラブ（鶴見区）

- 在籍人数：676 人
- 登録人数：364 人
- 延べ参加児童数：18,173 人
- プログラム実施数：203 回
- プログラム参加人数：5,608 人
- 主なプログラム：ドッジボールクラブ／親子焼き芋体験／茶道／フラダンス など

■秋葉小学校キッズクラブ（戸塚区）

- 在籍人数：735 人
- 登録人数：479 人
- 延べ参加児童数：22,440 人
- プログラム実施数：348 回
- プログラム参加人数：9,138 人
- 主なプログラム：スポーツチャンバラ／バドミントン／ドッジボール／大縄跳び など

■上矢部小学校キッズクラブ（戸塚区）

- 在籍人数：687 人
- 登録人数：365 人
- 延べ参加児童数：19,939 人
- プログラム実施数：153 回
- プログラム参加人数：3,624 人
- 主なプログラム：ドッジボール／アイロンビーズ／夏野菜の収穫体験 など

■名瀬小学校キッズクラブ（戸塚区）

- 在籍人数：537 人
- 登録人数：362 人
- 延べ参加児童数：18,011 人
- プログラム実施数：215 回
- プログラム参加人数：7,377 人
- 主なプログラム：ドッジボール／サッカー／バドミントン／おやつ工房 など

■本町小学校キッズクラブ（中区）

- 在籍人数：771 人
- 登録人数：336 人
- 延べ参加児童数：19,366 人
- プログラム実施数：152 回
- プログラム参加人数：2,671 人
- 主なプログラム：クワガタ研究会／ドッジボール／海苔づくり体験 など

■宮谷小学校キッズクラブ（西区）

- 在籍人数：910 人
- 登録人数：412 人
- 延べ参加児童数：23,388 人
- プログラム実施数：177 回
- プログラム参加人数：4,620 人
- 主なプログラム：ドッジボール／水墨画教室／生け花教室／3B体操 など

■十日市場小学校（緑区）

- 在籍人数：662 人
- 登録人数：302 人
- 延べ参加児童数：22,949 人
- プログラム実施数：70 回
- プログラム参加人数：2,057 人
- 主なプログラム：工作教室／グラウンドゴルフ／スライムづくり／ぬり絵 など

■長津田小学校キッズクラブ（緑区）

- 在籍人数：762 人
- 登録人数：366 人
- 延べ参加児童数：18,801 人
- プログラム実施数：221 回
- プログラム参加人数：6,649 人
- 主なプログラム：野球教室／ドッジボール／伝統遊び／創作クラブ など

■太田小学校キッズクラブ（南区）

- 在籍人数：269 人
- 登録人数：175 人
- 延べ参加児童数：11,770 人
- プログラム実施数：167 回
- プログラム参加人数：3,299 人
- 主なプログラム：風船バレー／バドミントン／ドッジボール／手芸・工作 など

■永田小学校キッズクラブ（南区）

- 在籍人数：549 人
- 登録人数：278 人
- 延べ参加児童数：16,915 人
- プログラム実施数：150 回
- プログラム参加人数：3,981 人
- 主なプログラム：グラウンドゴルフ／ドッジボール／陶芸教室／マジックショー など

■南小学校キッズクラブ（南区）

- 在籍人数：494 人
- 登録人数：213 人
- 延べ参加児童数：13,146 人
- プログラム実施数：145 回
- プログラム参加人数：2,464 人
- 主なプログラム：読み聞かせ／囲碁教室／クラフト／ドッジボール など



〔2〕事業の公益性について

定款（法人の事業又は目的）上の根拠		第4条第1項第1号、第2号、第3号
事業の種類 （別表の号）	（本事業が、左欄に記載した事業の種類に該当すると考えられる理由を記載してください）	
7	この事業は、すべての青少年が周囲の人々から見守られ、人のつながりの中で成長していくことができる社会を醸成するとともに、青少年育成活動への相談・助言・コーディネート及び青少年育成活動のための情報収集、青少年や青少年育成活動を支える人材育成のための講座・研修、青少年に体験機会を提供するための事業を実施するものであり、さまざまな体験を通じ青少年が自ら学び育つ機会を提供することにより、未来を担う青少年の成長に寄与することを目的としているため、「児童又は青少年の健全な育成を目的とする事業」であると考えます。	
（本事業が不特定多数の者の利益の増進に寄与すると言える事実を記載してください。）		
チェックポイント事業区分	チェックポイントに該当する旨の説明	
<p>（11）施設の貸与 区分ごとのチェックポイント</p> <p>《1》当該施設の貸与が不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与することを主たる目的として位置付け、適当な方法で明らかにしているか。</p> <p>《2》公益目的での貸与は、公益目的以外の貸与より優先して先行予約を受け付けるなどの優遇をしているか。</p>	<p>A - I 青少年活動を支援するための青少年施設の貸出</p> <p>《1》この事業は、青少年の育成活動を展開する場の提供を行う事業です。青少年育成活動に精通した職員により実施される活動に対する安全の確保、活動の効果をより高めるための情報提供、活動の運営補助等の支援を行うことにより青少年と青少年を取り巻く大人がともに育つ環境を醸成することを目的として位置付け、ホームページにおいて施設ごとに専用ページを設置して施設の特徴や利用方法等を広く公開しています。</p> <p>《2》青少年及びその指導者・育成者が実施する青少年育成活動のための施設貸与は、一般の予約よりも優先されており、また利用料も優遇しています。その情報はホームページにより公開しています。</p>	
<p>（5）相談、助言 区分ごとのチェックポイント</p> <p>《1》当該相談、助言が不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与することを主たる目的として位置付け、適当な方法で明らかにしているか。</p> <p>《2》当該相談、助言を利用できる機会が一般に開かれているか。</p> <p>《3》当該相談、助言には専門家が適切に関与しているか。（例：助言者の資格要件を定めて公開している）</p>	<p>A - II 青少年活動を支援するための相談・助言・コーディネート【相談事業】</p> <p>《1》青少年と青少年を取り巻く大人がともに育つ環境を醸成することにより青少年の健全な育成を目的とした事業で、その内容はパンフレット、ホームページで広く一般に公開しています。</p> <p>《2》この事業はすべての人を対象としており、相談、助言の受付時間、申込方法等はパンフレット及びホームページにより公開され、利用できる機会は一般に開かれています。</p> <p>《3》相談・助言は青少年活動に精通した職員が行っており、常に新聞や関係機関情報誌等により情報収集を行っています。また、職員は横浜市青少年相談センターの専門研修、県リードアップセミナー、個人情報保護に関する研修、児童の人権に関する研修を受講し、この事業に必要な専門性を維持しています。</p>	

<p>(5) 相談、助言 区分ごとのチェックポイント</p> <p>《1》当該相談、助言が不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与することを主たる目的として位置付け、適当な方法で明らかにしているか。</p> <p>《2》当該相談、助言を利用できる機会が一般に開かれているか。</p> <p>《3》当該相談、助言には専門家が適切に関与しているか。(例：助言者の資格要件を定めて公開している)</p>	<p>A - III 青少年活動を支援するための活動参加型の相談・コーディネート</p> <p>《1》青少年と青少年を取り巻く大人がともに育つ環境を醸成することにより青少年の健全な育成を図るため、横浜市内で実施された青少年育成活動を継続及び充実していくための支援を目的としています。実施した内容を取りまとめた資料は希望者に無料配布し、また、ホームページに概要を掲載し公開しています。</p> <p>《2》この事業は横浜市で実施されている活動に参加した人すべてを対象としており、パンフレット、ホームページ、窓口で案内しています。</p> <p>《3》相談・助言は青少年活動に精通した職員が行っており、常に新聞や関係機関情報誌等により情報収集を行っています。また、職員は市青少年相談センターの専門研修、県リードアップセミナー、個人情報保護に関する研修、児童の人権に関する研修を受講し、この事業に必要な専門性を維持しています。</p>
<p>(6) 調査、資料収集 区分ごとのチェックポイント</p> <p>《1》当該調査、資料収集が不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与することを主たる目的として位置付け、適当な方法で明らかにしているか。</p> <p>《2》当該調査、資料収集の名称や結果を公表していなかったり、内容についての外部からの問合せに答えないというようなことはないか。</p> <p>《3》当該調査、資料収集に専門家が適切に関与しているか。</p> <p>《4》当該法人が外部に委託する場合、そのすべてを他者に行わせること(いわゆる丸投げ)はないか。</p>	<p>A - IV 青少年育成に活用できる活動資源(NPOや企業CSR等の活動)の調査</p> <p>《1》青少年育成活動を推進するために、青少年を対象とした体験活動のためのリソースとしてプログラムや人材、活動の場等を調査し、より効果的な活動を企画・実施するために有効な情報及び活動実施内容を提供することを目的とし、報告書及びホームページにて明らかにしています。</p> <p>《2》当該調査、資料収集の結果を「横浜ユースマップ」や「活動レポート」としてホームページに掲載しています。また、提供した情報の問合せ先をホームページに掲載し、問い合わせには職員が対応しています。</p> <p>《3》当該事業の企画・構成・運営に関する仕様書は職員が横浜市と協議の上作成し、調査業務は職員と調査業務に必要な専門性のある団体に委託しているため、専門家が適切に関与しています。</p> <p>《4》報告書作成に関する仕様は当法人が作成し、調査結果をもとに分析・とりまとめまで実施しているため、主たる事業は当法人が行っております。</p>

<p>(3) 講座、セミナー、育成 区分ごとのチェックポイント</p> <p>《1》当該講座、セミナー、育成（以下「講座等」）が不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与することを主たる目的として位置付け、適当な方法で明らかにしているか。</p> <p>《2》当該講座等を受講する機会が、一般に開かれているか。</p> <p>《3》当該講座等及び専門的知識・技能等の確認行為（受講者が一定のレベルに達したかについて必要に応じて行う行為）に当たって、専門家が適切に関与しているか。</p> <p>《4》講師等に対して過大な報酬が支払われることになっていないか。</p>	<p>B - I 青少年を支える人材を育成するための講座・研修</p> <p>《1》この事業は、青少年及び青少年育成に関する知識の理解を深めることにより青少年育成活動の普及を促進することを目的に、青少年を取り巻くすべての人を対象に実施しており、ホームページにて明らかにしています。</p> <p>《2》講座ごとに、ホームページ、チラシ、横浜市広報に募集要項を掲載し、すべての人が参加可能であり、参加の機会が開かれています。</p> <p>《3》他の育成活動を実施する中で収集した課題等から、職員が青少年育成に必要なテーマを検討し、年間プログラムを決定しています。また、講師はテーマに応じて、職員及び専門機関の支援が必要な場合は外部に依頼しています。</p> <p>《4》講師の報酬は1,000円～70,000円の範囲と定められており、過大な報酬は支払っていません。</p>
<p>(4) 体験活動等 区分ごとのチェックポイント</p> <p>《1》当該体験活動等が不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与することを主たる目的として位置付け、適当な方法で明らかにしているか。</p> <p>《2》公益目的として設定されたテーマを実現するためのプログラムになっているか。 （例：テーマで謳っている公益目的と異なり、業界団体の販売促進や共同宣伝になっていないか）</p> <p>《3》体験活動に専門家が適切に関与しているか。</p>	<p>C - I すべての青少年を育むための多様な体験事業</p> <p>《1》この事業は、青少年に多様な体験機会を提供することにより、青少年を健全に育成することを目的とした事業で、すべての青少年を対象に実施しており、ホームページ、事業チラシ、広報等で明らかにしています。</p> <p>《2》青少年が体験を通じて、自ら感じ考えることで学び育っていくことができる集団での活動体験を、横浜市内の自然環境や青少年施設、野外活動施設等を活用し実施しています。</p> <p>《3》体験活動の企画・実施は職員が行っており、専門機関の支援が必要な場合は外部に依頼し、実行委員会等を組織し活動を行っています。</p>
<p>(4) 体験活動等 区分ごとのチェックポイント</p> <p>《1》当該体験活動等が不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与することを主たる目的として位置付け、適当な方法で明らかにしているか。</p> <p>《2》公益目的として設定されたテーマを実現するためのプログラムになっているか。 （例：テーマで謳っている公益目的と異なり、業界団体の販売促進や共同宣伝になっていないか）</p> <p>《3》体験活動に専門家が適切に関与しているか。</p>	<p>C - II 小学生を育むための放課後の安全な遊び場と集団活動の場を提供する事業 【放課後児童育成】</p> <p>《1》この事業は、小学生に放課後の安全な遊び場と集団活動の場を提供することにより、青少年を健全に育成することを目的とした事業で、小学校に在籍するすべての児童を対象に実施しており、活動内容や案内資料を毎月作成し、すべての児童及び地域に無料配布し、事業内容を明らかにしています。学校区に住むすべての人に周知とともに活動してもらうことで、地域の人が子どもを守り育てていくことができる環境の醸成もあわせて行っています。</p> <p>《2》横浜市の放課後児童育成施策に基づき体験活動を、学校施設及び近隣の公園並びに公営施設等で実施しています。</p> <p>《3》体験活動の企画・実施は職員が行っていません。</p>

収益事業について

事業番号	事業の内容	定款（法人の事業又は目的）上の根拠
収1	すべての青少年が周囲の人々から見守られ、人のつながりの中で成長することができる社会を醸成するとともに、青少年にさまざまな体験機会を提供し、その成長を促すという公益目的事業を達成するために実施する収益事業	第4条第1項第4号
<b>事業の概要</b>		
<p>1 爆笑！濱っ子寄席（寄附金募集事業）</p> <p>この事業は、すべての青少年が周囲の人々から見守られ、人のつながりの中で成長することができる社会を醸成するとともに、青少年にさまざまな体験機会を提供して、その成長を促すための事業として、広く市民に周知し、理解を深めることを目的に落語会を実施しています。具体的には関内ホールにて年1回の落語会を開催し、パンフレット等により青少年育成活動を紹介するとともに、その収益を一般寄附金として青少年育成活動（公益目的事業）の資金として活用しています。更に、横浜市内の企業の社会貢献活動の一環として、パンフレットに協賛広告（有料）を掲載しています。</p> <p>事業の内容については、青少年育成活動に理解のある各種企業の代表者による実行委員会形式により企画・運営並びに協賛企業探し、チケット販売までのすべてを職員とともに実施しています。</p> <p>また、出演者の交渉から演目までを、中心となる落語家の協力により、実行委員会と検討しながら進めています。</p> <p>なお、出演する落語家も青少年育成の趣旨に賛同いただき、チャリティーとして通常より低価格にて出演していただいています。チケット代金及び企業の協賛広告収入は、出演料、会場借上げ料、パンフレットやチケットの印刷代等として支出しています。</p> <p>■第56回爆笑！濱っ子寄席</p> <p><input type="checkbox"/>日時：11/18</p> <p><input type="checkbox"/>会場：関内ホール・大ホール</p> <p><input type="checkbox"/>入場者：723人</p> <p><input type="checkbox"/>出演者：柳家ほたる、すず風にゃん子・金魚、三遊亭歌之介、三遊亭圓歌、三遊亭小円歌、柳家権太楼</p> <p><input type="checkbox"/>実行委員会：全4回</p>		
<b>本事業を反復継続して行うのに最低限必要となる許認可等について</b>		
許認可等の名称	-	
根拠法令	-	
許認可等行政機関	-	
<b>本事業の利益の額が0円以下である場合の理由又は今後の改善方策について</b>		
「爆笑！濱っ子寄席」はチケット代金の一部を寄附金として公益目的事業に使用しているために利益は0円となっています。-		